

「山梨市の在宅医療と介護を語る会」

報告書



平成29年3月
山梨市／サポートやまなし

～目次～

【はじめに】

山梨市医療と介護の連携推進事業について	3
「山梨市の在宅医療と介護を語る会」の実施について	3
「山梨市の在宅医療と介護を語る会」周知チラシ	5
参加者への配布資料	6

【第1回】

各グループ 意見内容	8
アンケート	16

【第2回】

各グループ 作戦内容	20
アンケート	28

【第3回】

各グループ 当日の様子（写真）	31
アンケート	34

【第4回】（報告会）

各グループ 取り組み発表内容	37
アンケート（メンバー）	45
アンケート（来観者）	49

【参加者名簿】

【あとがき】

「山梨市の在宅医療と介護を語る会」のその後の経過について	56
------------------------------	----

【はじめに】

山梨市医療と介護の連携推進事業について

1 事業概要

平成 28 年 4 月現在の山梨市の 65 歳以上人口は 11,171 人、高齢化率は 31.0% で、要支援・要介護認定者数は 1,871 人です。今後も高齢化が進み、病床数の削減などにより、在宅医療の必要性が高まる状況にある中で、「介護保険法の地域支援事業の包括的支援事業における在宅医療・介護連携推進事業」（第 115 条 45 2 項 4 号）において、医療と介護の連携推進事業を平成 30 年度までに全市町村で実施することが決定しました。

山梨市では山梨市立牧丘病院に在宅医療における連携推進拠点「サポートやまなし」を整備し、市内の関係機関と連携しながら、市民が高齢になっても病気になっても、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、平成 28 年 4 月 1 日より、下記の事業に取り組み、山梨市の在宅医療と介護の支援体制の構築を目指すことになりました。（別紙 1 参照）

2 事業内容

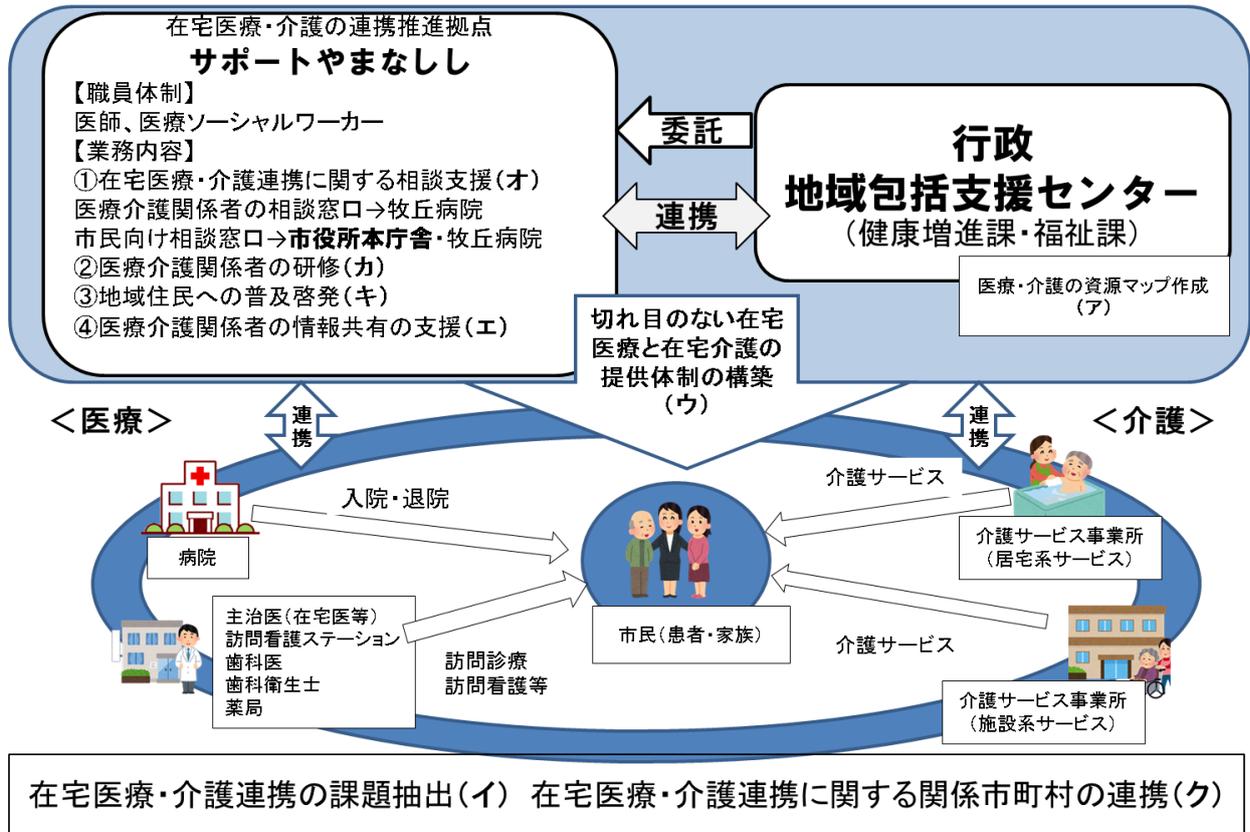
- (1) 地域の医療資源及び介護資源の把握
- (2) 在宅医療及び介護連携の課題の抽出及び対応策の検討
- (3) 切れ目のない在宅医療及び在宅介護の提供体制の構築推進
- (4) 医療関係者及び介護関係者の情報共有支援
- (5) 在宅医療及び介護連携の推進に関する相談支援
- (6) 医療関係者及び介護関係者の研修
- (7) 地域住民への啓発活動
- (8) 在宅医療及び介護連携に関する関係市町村の連携

「山梨市の在宅医療と介護を語る会」の実施について

市民が住み慣れた地域で生活することを支えるため、地域の医療、介護関係者が一堂に介し、話し合うことで、市の在宅医療及び介護に関する課題を整理し、多職種協働による支援体制を構築推進することを目的に、市と「サポートやまなし」の共催で「山梨市の在宅医療と介護を語る会」を実施しました。この会は、山梨市の地域ケア会議において、ネットワーク構築、地域課題発見、地域づくり・資源開発の機能を持つ会議に位置づけられます。（別紙 2 参照）

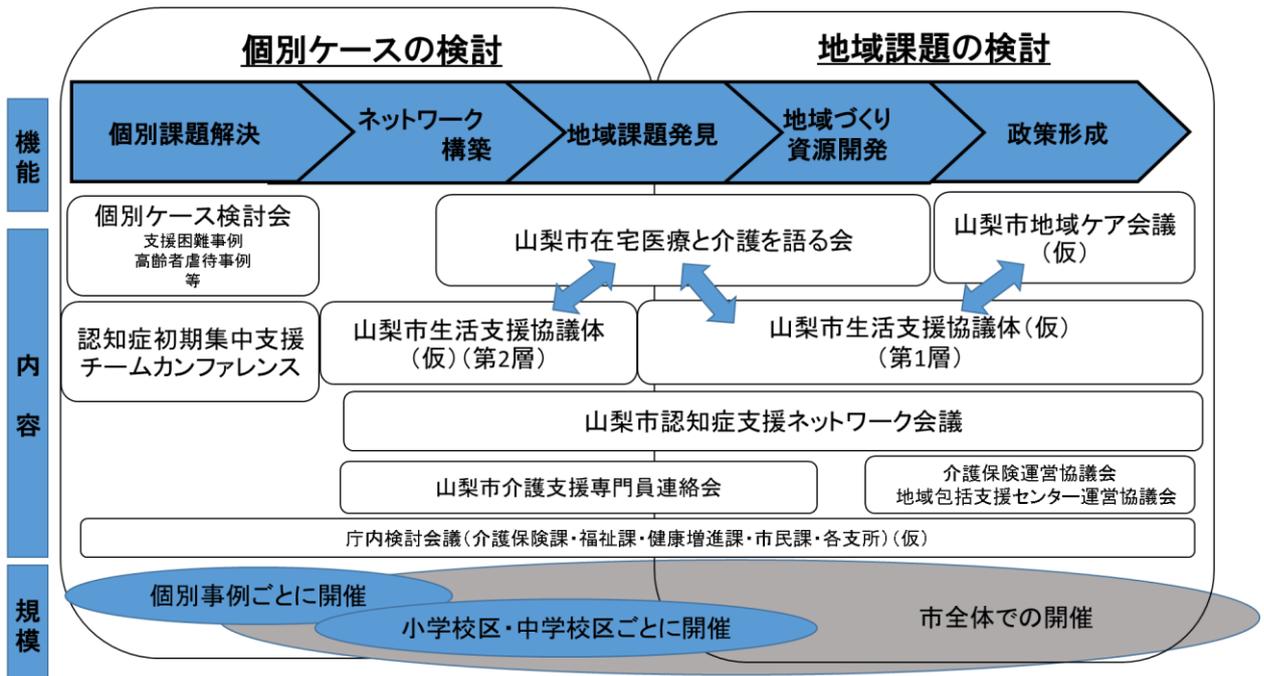
【別紙1】

山梨市在宅医療・介護連携推進事業イメージ図



【別紙2】

山梨市地域ケア会議イメージ図 (高齢期)



「山梨市の 在宅医療と介護を語る会」 に参加しませんか？

高齢になっても、病気になっても、住み慣れた場所で過ごせる山梨市をめざして、在宅医療や介護に携わる市内の専門職が集い、語り合う会を開催します。

支援者として日頃感じている様々なことを、気軽に話し合い、つながりあう…そんな会となるよう皆様のご参加をお待ちしています。

＜対象者＞

医師、歯科医師、薬剤師、看護師、保健師、栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、介護職員、その他医療、介護関係者

日程 第1回 平成28年7月 5日(火)
第2回 平成28年7月26日(火)
第3回 平成28年8月30日(火)
第4回 平成28年9月27日(火)

*全日程のご参加をお願いいたします。

時間 午後7時～

場所 山梨市役所 西館5階会議室

*業務時間外のため正門が締まっております。お車の方は東門からお入りください。
別紙の地図をご参照ください。



申込み・問い合わせ

山梨市地域包括支援センター(山梨市介護保険課) TEL 23-0294

サポートやまなし TEL 35-2055

主催 山梨市／サポートやまなし

参加者への配布資料

「山梨市の在宅医療と介護を語る会」のすすめ方

目的：住み慣れた自宅で、高齢になっても、病気にかかっても、生涯、生き生きと暮らし続けるため、現在支援していること、また、これから取り組みたいこと、などを市内の医療と介護の関係職種が自由に語り合う会です。

KJ法（写真分析法）で話し合いを整理します。

研修会テーマ：「市民が、安心して、住み慣れた自宅で生き生きと生活することを支えるためには何が必要か。（医療と介護の連携を視点に）」をテーマに話し合いをすすめます。

第1回：平成28年7月5日(火)19:00～21:30

内容：住み慣れた自宅で、生き生きと生活することを支える中で、感じていること、課題とと思っていることをみんなで話し合います。

第2回：平成28年7月26日（火）19:00～21:30

内容：住み慣れた自宅で、生涯、生き生きと生活することができるために、「必要なものは何か」を話し合います。話し合った「必要なもの」の中からひとつ取り上げて、それを実行するためのプランを検討します。実施に向けての作戦を立て準備します。

作戦は、自分たちが具体的にしかも短期間で取り組めるものとしします。

第3回：平成28年8月30日（火）19:00～21:30

内容：作戦を立て実行してきた内容を出し合い、写真を用いて、その成果と課題を話し合い、発表用に資料を整理します。

第4回：平成28年9月27日（火）19:00～21:30

内容：実行してきた活動の成果をみんなで発表し合い、取り組んできたことの確認をするとともに、次への活動の方向性をみんなで話し合います。



話し合いのすすめ方

グループに分かれ、全員で話し合ってください。

一人ひとりの意見を大切にしてください。

（自分とは違った考え方の人もいます。出された意見は否定せずどんな意見でも耳を傾けてみましょう。）

山梨市のこれからのを、楽しく語り合ってください。

第1回

平成28年7月5日(火) 19:00~21:30



(グループ毎 意見集約発表の様子)

【1グループ意見】

【インフォメーション】

- 医療相談する場所（市役所）（病院以外）
- 介護サービスの内容が周知されていない。
- 制度をもっと理解する、知る。
- 入院中に本人・家族がサービスを利用して在宅生活が可能なることを知らない。
- 社会資源の周知が不十分。
- 介護の道はたくさんある。終末へその人毎にすすむ道（適した）を探しやすくする。
- サービス等がうまく使えない。
- 制度のイメージが行えない。
- 自宅と施設の比較が利用者にわかっているか？
- 在宅で困っている人（高齢者・家族）の相談できる場所（サービスは）？
- 認知症の早期発見。

【インフラ】

- 交通インフラ（買い物・病院等）
- 気軽に外出できる手段が少ない。
- 高齢者の移動手段が課題。
- （足が不自由な方が）外出するための交通手段が少ない。
- バス等を充実させ、移動しやすい環境づくり。
- 行動範囲が狭くなる。
- インフォーマル資源が少ない。

【コミュニティ】

- 高齢者が気軽に集まる場所。
- 男性の高齢者でも気軽に集える場所づくり。
- 買い物する場所が遠い。
- 趣味・娯楽の場所がほしい。
- 地域の中でのかかわりの場がほしい。

【コミュニケーション】

- 近所同士で声掛け（1人暮らしが多くなった）。
- 近所同士で声掛けできたり、見舞えるような関係づくりが大切。
- 地域の関わり。
- 高齢になるにつれ地域とのかかわりが減っていく。
- 1人暮らしの方みんなで食事を食べる事。
- 医療につながっていない人を把握する。

【マンパワー】

- 課題 各々の職種でマンパワー不足。
- 在宅医療へのパワー不足。
- 生き生きと生活するのを支えるのは誰？
- 医療介護職のマンパワーの不足。
- 本人が必要としている部分の支援、入り過ぎ。
- 実際に地域でしている活動は何か。
- マンパワー……。
- マンパワー（本人との信頼関係）

【エンパワメント】

- 高齢者の役割へ。
- 本人の役割（家事・畑など）に対する支援が不足。
- 急性期→在宅の際、すぐにサービス利用できない場合がある。
- 本人の自己解決能力が不十分。
- 本人・家族の主体性が低い。

【ターミナル】

- 看取りのできる家族。
- 在宅での看取りは覚悟が必要（家族も周りの人も）。
- 看取りたいけど自信のない家族がいる。なんとか支援していきたい。
- 人は魂が主体であの世が本来の場所ということを教育で伝えていきたい。

【ニーズ】

- 本人と家族の思いがすれ違うことがある。
- 本人と家族の意向のギャップがある。
- 希望と現実の差 本人・家族が理解できているか？
- 本人の思いに寄り添うためには何が出来るか（持ち場・立場で）。
- 本人の思い。
- その人らしい生活は何か関係者で考えを共有する。
- 家族各自の考えている事、したい事を知る、理解する。
- 困っている事を知る（本人・家族）。
- 自分の思いが言えない。
- 本人の思い 家族の思い。
- 認知症など本人の意向の確認が難しい時は支援も大変。

【チームアプローチ】

- 関係者・他職種との連携の課題。
- 関わる他職種で支援の目標を共有する。
- 密に支えあえるよう今回の顔の見える関係強化は大切ですね。
- 目標設定の仕方・機能維持など機能レベルでの設定。
- 健康余命をできるだけ延ばせるよう今の医療の現場で頑張りたい。運動指導や食事指導、生活習慣の指導など。
- 1人暮らしの方の緊急時の対応（家族がいない場合）。

【2グループ意見】

【SOS】

- 緊急時の対応。
- 体調不良の時のスムーズな対応。
- 急変時の医療機関受入体制充実。
- 在宅医療の充実(往診)。
- 夜間・休日安心して病院にかかりたい。
- ドクターとの連絡の取り方。
- ふれあいペンダント必要でも協力者がいない。

【独居】

- 特に独居の方への支援の仕方。
- 家族が困った時こそ相談にのる。
- 心配なのは病人・高齢者だけじゃない。家族も、家族いない人も。
- 誰がキーパーソンがわからない。
- 1人暮らしが大変。
- 独居で家族遠方の方が多い。
- 独居の方の急変時の対応。

【生きがい】

- 自立支援が難しい。
- 趣味を持つ 見つける手助け。
- 地域にも居場所がほしい(デイサービスだけでなく)。

【連携】

- 地域と病院との情報交換不足。
- 情報の共有。
- 利用者の情報を共有する方法。
- 実際の状態と介護度のギャップ。
- 地域性 地域ごとのサービスの違い(種類等)。
- 支援する側(関わる側) 全てでの情報共有できること。
- ケースワーカーが窓口でケアマネと直接話ができない。
- 関わった以上、とことん関わってほしい。
- 医療と介護、どこまで情報共有できる？
- タイムリーに情報交換をしたい。
- 連携
- 問題が起きていることへの気づき 市や民生委員など。
- 必要な情報が出てこない。
- 医療職と介護職の情報共有。
- 医療・介護のワンストップ相談。

【地域の力】

- 地域がんばれ サービスだけで何とかなるの？なるかもしれないけど、どうなの？
- 地域による訪問の難易度。
- 地域の人をもっと巻き込んでもらいたい。
- 地域の力を知りたい。

【フルーツ山梨】

- 必要な介護サービスが使えない。
- 農繁期のサービス利用の調整が困る。
- 利用サービスの不足(農繁期)。

【個人情報】

どこまで個人情報？

【認知症問題】

重度の認知症の方、対応難しい 医療の力？ 介護の力？

【その人らしく】

利用者(家族)の意思と専門家の判断

【3グループ意見】

【移動手段】

- 移動手段の確保。
- 介護が必要な方が地域に出かける手段をつくる。
- 訪問。
- 交通手段がない。
- まだまだできることはあるのに、手段や生かす場所がない。

【金】

- 色々と支えていくためにはお金が影響してくると思う。
- 金銭面・経済的問題。
- お金がかからない、また低額で受けられる様々な支援。
- 医療・介護の財源。

【健康(心と体)】

- 自分で日常生活ができなくてやしさ。
- 病気の悪化への受容ができない。
- 生きることへの不安。
- 生き生きと暮らし続けるには
☆ 認知症にならない ☆ 筋力の維持が必要
- 生き生きと生活するには健康でなければダメ。
- 食べることは生きがい 一口でもいい、そこをサポートする。
- 介護状態では生き生きとした生活は出来ないのでは。
- その人の身体面だけではなく精神面にも深く関わっていく必要がある。
- 迷惑をかけている気持ち。
- いつもさみしい。
- 好きな物を食べられる喜び。

【生きがい 役割】

- 自分でできる事はしていきたい。
- 仕事があれば生き生きとした生活が出来る。
- 元気な高齢者が活躍する場をつくる。つなげる人が必要。
- できる気持ちを実際に引き出すのは難しいと思う。
- 昔できていた事ができなくなった喪失感。
- ~のために仕事・役割が發揮できる場。人は誰かのためにするとき元気になれる！
- 生き生きとした生活は人それぞれ。
- 支援する方法によっては良い方に行く場合もあるし悪い方に行く場合もある。
- その方の生きがいが分からない。
- 生きがいの喪失。
- 後ろ向きな生活をしている人を元気に前向きにすること。

【家族愛】

- その人を支援するには家族と周囲の関わりが大切。
- 家の中でも孤独。
- 家族愛
- 家族(介護)へのサポート(経済的・精神面・体力的)。
- 独居・老々介護をいかに支えるか。
- 嫁に気を遣う生活。
- 本人と家族の思いの違い。
- 家族と本人の温度差。
- 自分の家でいつまでも暮らしたい。
- やさしい家族がいる事が大切。
- 1人で暮らす限界をなくす、減らす。
- 家族を支えることで高齢者が負担を感じないで暮らせる。
- 「生き生き」との共通認識をする。
(支援者・本人・家族・地域)

【地域】

- 友人がいなくなる(死亡・入所等)。
- 施設を地域に分散する。
- 支える側が少ない。
- 本音を言う人がいない。
- 自分の気持ちが言えない日常。
- 地域性(高齢世帯・独居者)。
- 介護が必要になっても自分の思いが伝えられる環境。
- 人との繋がりが継続できる事。
- 認知症の人を理解して支えてくれている地域の人がいる。
- (フォーマル⇔インフォーマル)サービスの橋渡し。
- 結びつける力。
(家⇔行きたい・やりたい場所)
(〇〇が出来る人⇔〇〇を知りたい・やりたい人)
- 行事の復活。

《つぶやき》

・家とお墓を守っていききたい…
・女性と男性の差…

【4グループ意見】

【QOLの向上に対する本人の自覚】

- 出来る事は自分でしてもらい、出来ないところを支援する。
- 生活の中で楽しみを持ってもらう。
- 要介護状態にならないよう体を鍛えてもらう。
- 本人・家族のサービスを受ける「お客様」感覚。
- ご本人が各種サービス・ケアについての知識・理解不足。活用できていないこと。
- 自分自身で身の回りの事が出来るために、どんなサポートが必要かを見極められる。
- 「やりたいこと」「なりたい自分」等、目的・目標が持てること。

【社会参加の場が少ない】

- 地域とのつながり。
- 地域の中に自由に集まれて、語れて、エネルギーをもらえて、元気になれるような場所があるとよい。
- 社会参加できる場所が(あまり)ない。
- 生き生きと生活するには「自分も他の人の役に立つ」という状況が大切。お互いに助け合う関係をどのように造るか課題。
- 独居や高齢世帯のお家に、お話をしたり顔を見に行く人ができる。

【経済的問題】

- 経済的な問題で必要と思われるサービスが受けられない。
- お金の問題。介護＋仕事は家族にとって大きな負担。

【交通手段】

- (特に山梨では)交通手段が少ない。
- 牧丘は交通手段が少なく出掛けられない。近所も遠い。
- 受診以外の外出支援(サービス)を受けたい。

【介護保険制度の問題】

- 生きている最低限のサービスで限度額が終わってしまう。楽しみまでまわせない。楽しみではサービスが使えない。
- 自宅にいるためには24時間の排泄介助か排泄の自立が必要。
- 介護を職業とする人の給料が低すぎる！

【ちょっとしたインフォーマルサービスがない】

- 病院まで介護タクシーで行けても、院内を付き添ってもらう人がいない。独居だと受診が大変です。
- 気軽に使えるサービスが増える(買い物・ゴミ捨て)。
- 足腰が弱くなって自分で出掛けられなくなると、行動する範囲がだんだん狭くなる。
- ゴミ収集のお兄さんが自宅までゴミを持ちに来てくれる。
- 買い物に行けない人のための支援が必要。
- 家族・近所の人・地域の人々の支援が必要。
- ちょっとした困り事の手助けをしてくれる人がいない。

【情報共有の方法】

- 介護現場の意見を聞く場が見当たらないこと。
- 情報がなかなか得られない(見づらいなどで)。
- 介護が必要な方の情報を共有する→なるべくオープンに。
- 医療は在宅での様子が分からず、在宅からは医療上の課題が分かりにくいので、情報の共有が課題。
- 生活の場である事が病院にいると分かりづらい。生活が見えない。
- 病院を退院する時は情報がほしい。
- 現場での問題がケア会議などで挙がらない事がある。
- 医療・介護の連携を図り、ご本人のニーズにより近づけられる事を考える。
- 現場で支援しているヘルパーさんなどから生の声を聞いたり顔を合わせたりすることが少ない。
- 情報を伝達・共有する方法。

【家族や介護者の悩みを理解】

- 本当に困っている事が分からない(本人達が上手く訴えられない)。
- 本人や家族が抱える本音の悩みを理解する。それぞれの立場で知った情報を共有することによって、情報交換の方法が課題。
- ご本人様・ご家族様の心の気持ちを理解する。引き出せるようにフォローする。
- 何か悩んでいても気軽に話をできる人がいない、もしくは知らない。
- 介護者・支援者へのフォロー。
- 介護する側(家族)のケア。

【家族関係の問題】

- キーパーソンが県外や別に生活していると情報が得られない。
- 家族がもっと本人のことに興味を持ってほしい。

《つぶやき》

- ・長生きするって幸せ？
- ・全てに於いて生きにくい世の中 (例)駅の券売機、スーパーのレジ、デジタル化？、自動音声化？
- ・自由もあるけど、必要な時は人が来てくれるような場所があれば自宅にこだわらないかも…

【5グループ意見】

【悩み】

- 認知症の方の家族が困っている。ストレスをためている。
- 何でも相談できる人をつくる。
- 相談できる窓口があることを予防的に住民に知らせる。
- 誰に何を相談していいかわからない。
- スタッフがどんな事業があるのか知らない。
- 認知症の理解が乏しい。
- 相談窓口の敷居が高い。
- 困っている事を恥ずかしくて周囲に打ち明けられない。
- サービス内容が知られていない。
- ほっとスペースやさつきの会が活かされていない。
- 同じ悩みを持っている人達の交流の場が少ない。
- 相談窓口までたどり着けない。
- 認知症の人の介護者は相談する人がいない。
- 認知症の方の家族はなかなか相談に出向けない。
- サポートするための市の事業の広報がわかるようにする。
- 悩みや辛さを発信する場所がない。

【自覚】

- 支援者側が問題と思うことを本人・家族は全く問題と思わないこと。
- 本人が困っていないことが問題。
- 認知症の人は自覚していないので介護・受診に結びつかない。
- 当事者が困っていないことが多い。
- 支援が必要な状況なのに本人に自覚がなく受け入れられない(拒否される)。

【サポート】

- 認知症の方(その家族)へのサポート不足。
- BPSDの対応の方法を家族が理解できない。
- 本人意思より家族の意思が主となる。
- 家族とのコミュニケーションが薄くなってしまう。
- 家族力が弱い人の支援。
- 家族の心のゆとりが生み出せる方法が必要。

【やりたい!】

- 認知症になっても畑や料理や好きなことを続けられたらいいのになあ…。
- 新しい生き生きを探したり見つけたりが難しい。
- 生活歴をもっと知って、その人らしさを見つけてあげたい。
- ぶどうや桃が上手く作れなかった時の対応。
- 認知症になると「火が危ないから」と料理がさせてもらえない。
- 介護サービスとやりたいこと(畑)の両立ができない。
- 認知症になると桃やぶどうや野菜を作り続けられない→認知症悪化。
- 外のサービスに移行するのが難しい。
- 「やってはダメ!」と言われてしまう事が多い。
- 仕事(農業)ができなくなるとさみしい。
- 遊休農地を利用した生き甲斐づくり。
- 個々の『生き生き』を見つけてあげられない。
- 認知症の方の趣味や生き甲斐を探す。
- 農家の人は仕事以外に生き甲斐が少ない。
- 当事者の価値観・生活歴をよく理解する。

【インフラ】

- 交通の不便さ。
- 高齢者は買い物が大変。

【金】

- 経済的に厳しくサービスを受けられない。
- お金があっても自分のために使えない。

【応援】

- サービス事業所側へのサポートシステム。
- 在宅医療の整備。
- 訪問事業の拡充を考える。

【見守り】

- 「同居していない」「仕事が忙しい」等で家族が関わる事が出来ない。
- 認知症・独居の人の服薬管理。
- 緊急時の対応。
- 1人暮らしの方の緊急時対応。
- 介護力(独居・高齢者夫婦)

【コミュニティ】

- 街全体で認知症患者をサポートする。
- 地域内での助け合い。
- まわりの人にわかってもらうことが必要。
- 地域の居場所が閉じこもりを防止する。
- 多くの人が認知症を怖がっている。
「なりたくない」「おかしくなっちゃった」
- 地域住民のサポート力を使う。

【はざま】

- 医療未満・介護未満の人の受け皿がない。

【6グループ意見】

【心と体】

- 認知症への理解。
- 認知症高齢者の在宅生活の境界線。
- 病気・障害がある。
- 身体機能の低下(歩行困難等)。

【地域のつながり】

- (たくさん)しゃべる機会がない。
- 社会(外の人)とのつながり。話し相手。
- 一人暮らし、高齢者二人暮らしが増えている。
- 具合が悪くなっても助けを呼べない。
- 地域の見守り。
- 孤立。
- 人とのつながりが減っている。
- 「困っている」と言う相手がいない。
- 地域の中で交流がない。
- 近所の声掛けがない。地域で声掛け、見守りしていく。
- 地域との交流・つながりが少ない。

【本人の思い】

- どう生活したいか本心を聞き出すこと。
- 本当の気持ちを探る。
- 私の役割は何？
- 介護サービスを拒否する人々。
- 本人の考えていること。
- 役に立っていると感ずることができない。
- 家庭の中で役割をもつ。
- 本人の思い・家族の思い・支援者の思い 同じ？違う？
- 劣化しない精神の尊重。
- ご本人の生き甲斐と思えることがあるといい！
- 出来る事・出来ていた事が減り、成功体験が少なくなっている。
→自信をなくしている。
- 介護サービスで生き生きできる人とできない人がいる。
- 本人あるいは家族が支援を拒否。

【場所】

生き生きと過ごせる場所

【お金】

- 介護にお金がかかる。
- 介護にお金がかけられない。
- お金…。
- 継続していくための費用。

【専門職の連携】

- 支援する専門職間の情報の共有。他職種連携。
- 専門職の関わり範囲。
- 本人の選択を尊重したいが周囲は不安に思うことがある。

【移動手段】

- 高齢者の移動手段(車の運転)。
- 交通手段がない。
- 自宅から病院まで外出するのに交通機関少ない。
- 交通手段の確保。
- 認知症高齢者の車の運転。

【家族の力】

- 介護者の負担(高齢化・少子化)。
- 家族との関わり。
- 家族の力。
- 家族支援。
- 家族の関わりが少ない。
- 介護する人が少なく負担が大きい→介護する人へのサポートが必要。
- 介護者がメンタルだと対応が難しい。
- 介護する家族にも限界がある。
- 介護どこまで頑張れる？ ポーダーがわからない。
- 家族内に複数支援を必要とする人がいるケースが増えている。
- みんなが忙しい。

【7グループ意見】

【ありのままに】

- 誰にも邪魔されない。
- 自分の行きたい所へ行くことができる。
- 歩いて行きたい場所に行ける。
- 自分が自然に自由に生きる事。
- 好きな事が出来る。
- 行きたい所へ行ける(外出)。
- 家族の都合に振り回されない生活。
- 季節を感じる機会(外出)。

【公助】

- 理解ある行政の人。
- 情報がつながり合える手段・機器。

【眠り】

安眠。ぐっすりよい眠り。

【医療の確保】

- 病院に連れていってくれる人。
- 具合が悪くなった時に病院へ行くことができる。
- 健康維持できる保証。
- 痛みがなくなる。
- 受診や外出を手伝ってくれるサービスや人。

【生きがいに生きる】

- 気軽に集まる場所がある。
- 自分が楽しめる(落ち着ける)居場所がある。
- テレビ・音楽・映画・本。
- 自分が住み慣れた(落ち着ける)環境。
- 好きな事や働きができる環境がある。
- 楽しく過ごせる場所をつくる。
- 自分を生かせる場所をつくる。
- 住み慣れた地域内との交流ができる。

【経済的安定】

- お金も大切！
- 生活に困らない経済力。
- 経済的な支援。
- 自分の欲しい物を買う事が出来る。
- 好きな食材・服が自由に入る。
- 生活の不安がない。
- 生活できる程度のお金。

【心の居場所】

- 認知症になっても自宅で暮らせる。
- 自分の価値を認めもらえる〇〇がある。
- 昔から得意と思っている事を誰かのためにやってあげられる繋がり。
- 心配事がなくなる。
- ありがとうと言われる瞬間。
- 楽しいと思える時間。
- 誰かのために思いやる事。
- 自分を理解してくれる人がいる。

【生きている証】

- 自分を生かせる、生かしてくれる場所(働く所)がある。
- 何もできないと思っていたけれど、こんな事で役に立ったという気持ち。
- 役割がある。

【おいしく食べた胃】

- おいしい食事(弁当でもOK)。
- 食べる意欲。おいしいと感じる事。
- おいしい食事を食べることが出来る。
- 困らない食べ物。
- 食欲。

【つながり】

- 自分の思いを全て話せる場所をつくる。
- 若い時から友達を作っておく。
- 自分を大事にしてくれる人が周りにいる環境。
- 自分でできない事を、ちょっと助けてもらえる人がいる。
- 家族や友人に悩みが相談できる。
- 適度に仲間と過ごせる(自分のペースで生活できる)。
- (気の合う)趣味の合う仲間。
- 気を許せる仲間。
- 気の合う仲間や話し相手がいる。
- 誘い合える交友関係。
- 家族。
- 自分を認めてくれる人。
- 家の中(家族の中)で一人ぼっちにならない。
- 話をしながら楽しく食事ができる。
- 力を貸してくれる人(家族・友人)。
- 話を聞いてくれる人がいる。仲間がいる。

【8グループ意見】

【独居の方の見守りについて】

- 日昼独居でいる方に、いかに介護保険のサービスを使ってもらえるようにするか。
- 独居の見守りについて。
- 介護保険非該当だけど見守り必要？何か起きた時の支援誰がしてくれるか。
- 家族と同居、家事支援の使い方（どの程度で使えるのか）。
- サービスを利用しないうちから、「何かあった時に頼れる人がいない」という理由で介護保険申請する人が多い。
- 緊急時の連絡先の確保（独居・身寄りのいない方）。

【他職種との連携について】

- ①病院⇄薬局、②薬局⇄患者について。薬局は患者様には言えるが病院には状態を聞けない。①をスムーズにしたい。
- 一人暮らし・認知があって薬が飲めない人のフォロー。
- 薬の飲み忘れと過剰摂取による体調不安。
- 薬が正しく服用できなくて薬がバラバラになり、結局ゴミ箱に行ってしまうこと。
- 医療状況の情報提供の範囲どこまで伝えられるか。伝えられないことが多い。
- 医療上入院の必要性のない方の入院相談、必要以上の『圧』をかけてくる。お互いの譲歩？
- CMとしての戸惑い。サービス中に事業さんから「具合が悪いので受診が必要か」と問われる時。
- 患者様の薬の情報を知りたい（服薬環境）。
- 他職種との連携。
- 医師との関わりを持つことが難しい。
- 薬の作用と副作用を薬の説明書で知ってほしい。
- 薬で具合が悪くなっている方もいるかもしれません。「いっぱい服用して大丈夫かな？」と不安になり残薬になること。
- 施設の体制として、ご本人様の希望に添えないことがある。

【認知症と周囲の人々の理解】

- 認知症の方への家族・地域の理解不足。
- 『認知症』本人・家族よりも近隣からの通報や相談が頻回にある。
- 認知症で一人暮らしの方への周囲の無理解と、利用されてしまう事もある。
- 認知症の方への周囲の理解が得られない。
- 地域もしくは周りの人達との関係。
- 地域ぐるみで支援することが難しい。

【なんとかしたい気持ち】

- 生きる事に消極的な方（サービス拒否・医療拒否）へのアプローチ・距離の取り方。
- 携わっていて感じていること。本人に希望がないことが多い、楽しいことがない。
- 一人ぼっちになり孤独感になっている人。
- 話し相手がいない。淋しいと訴える。
- ゆっくりと話を聞いてあげると生き生きと話をするので、何もなくても話を聞いてあげたい。
- 本人の思いを共有できない。
- 自分の思いをあまり話さない方の場合、本人が望んでいるサービス提供ができていのかどうか。
- 閉じこもりの高齢者が多い。

【本人と家族との関係】

- 要介護者とその家族の言い分が異なる。
- 本人と家族との考えの相違。
- 家で生活したいが家族が勤めているので施設やショートステイに行かなければならない現実をどうすればよいか。
- 置かれている環境の中で楽しみを見つけられる事、生き甲斐を感じる生活を営む事ができる。
- 本人と家族の思いに差がある。
- 家族の理解が得られなかったり家庭環境の問題などで、ご本人様の希望に添えない事がある。
- 本人・家族・ケアマネージャーがあまりうまくいっていない（関係性）中での支援。

【介護サービスについて】

- 介護度サービス。
- サービスの限界。
- 本人の状況に合わせたサービス。
- 家族が対応できない分を介護サービスで補おうとすることで、実際の必要量より多くのサービスを希望している状況。
- サービス（資源）が限られている。少ない。
- サービス自体に拒否がある人へ、どう介入するか。

【介護負担】

- 在宅介護は家族の負担が付きもの。
- 介護保険料が高くなってしまふこと。何とか安くできないかと思う。

【食と栄養】

自食（口からの食事）

第1回 「山梨市在宅医療と介護を語る会」 アンケート

- 始めは何を話してよいかわからないという感じでしたが、自己紹介後に自由に話す時間があり、準備ができたようです。いろいろな意見を自由に話せて良かったです。
- どんな会になるのか、予想できませんでしたが、参加してみたらすごく楽しく勉強になります。ありがとうございました。
- いろいろな支え方が出されたので、とても勉強になりました。自分一人で考えるより、皆さんで考え支えあっていく方が良い事もよく分かりました。
- 他職種の方々と1つの課題について、色々な意見が出た事はとても刺激的でした。次回も楽しみにしています。
- 様々な職種の方の様々な意見を聞くことができ、とても勉強になった。
- 山梨市の中で、沢山の専門職がこんなに力を合わせることができると、きっと在宅医療と介護は前進すると思います。
- グループ内で沢山の話が聞けました。現場で生かせる意見が多く、明日から気持ちを込めてケアできればと思いました。
- グループによって色々な意見や考えがあり、とても参考になりました。
- 終わってみれば意義あるグループワークでした。
- どのように支援していったら良いのか、悩んでいた事へのアドバイスをいただきました。やはり多職種の集まりはいいですね。今後もこのようにフリートークができる機会があれば良いと思いました。ありがとうございました。
- MSWです。普段病院の中で仕事をしていることが多く、在宅の様子を知ることが出来るのは本人・家族・ケアマネジャー・包括・訪看など人づてからが多い。実際に自宅に行き様子を見ることはない。直接在宅支援のサポートというより、「連携」「つなぐ」ことがメインになるため、本人を支える関係機関皆さんの協力があってこそ仕事が出来ていると改めて思った。在宅での生活の問題がよく見えて良かった。
- 他職種の方々と語り、意見交換することの重要性を感じました。皆さんそれぞれ忙しいですが、こういう機会をたくさん持てたら山梨市も良くなると思います。
- 他職種の方との意見交換の貴重な場を設けて頂き、それぞれの立場で支援者を真剣に支えたいという気持ちが強く感じられ、有意義な時間を過ごさせて頂きました。これからの集まりも楽しみにしています。
- 他職種の方の話を聞く事ができ良かった。話を聞く事で、新しい発見もでき良かったです。
- 医師・MSW・CM・サービス事業所・山梨市役所の方々と一つのテーマについて様々な立場での意見をうかがうことができ良かったです。計4回、同じメンバーでの話し合いになりますが、最後の日には他のグループの方々との交流があると嬉しく思います。
- 在宅生活の継続を考えた時に自分一人だけの力では限界を感じ、このように他職種で連携できることにより、少しでも長く安心して自分らしく生活ができる糸口が見つかると思いました。この研修内容を現場で実現できる具体的な行動につなげる事ができるといいです。次回研修も楽しみにしています。
- 皆様と話をしていると、その患者様を何とか幸せに暮らしてほしい気持ちや、家族が安心して生活できる方法を聞くことができました。話し合うことで、少しでも「幸せ」と「安心」が生まれるようにしましょう。
- いろいろな意見があり勉強になりました。山梨市も現在約3分の1が65歳以上の社会になり、今後在宅に関わる機会が増えることと実感しています。やはり他職種との連携が重要になるでしょう。今日は良かったです。
- ここに来ている人達は心配ない。ここに来ていない人達が多く無関心な人であることに今後の不安を感じる。
- 他職種の集まる場でしたが、感じている課題は似ているものが多くありました。サービスで対応できない範囲、家族がいればかりにサービス頼りになってしまう人も多いと思います。課題解決のために具体的に動いていける話し合いにしていきたいと思います。
- 他職種の方の話を聞いて、皆さんサービス(支援)の提供をしてあげたいが、受け入れが困難な時があるという思いが同じだと感じられて良かったです。
- 語る会に参加した者同士、対話を深めたいと思いました。そのことで山梨市が変わったら幸せに思います。30年後は私も要介護者であろうから。
- 雰囲気良くできました。
- いろいろな意見を聞いてよかったです。人の意見を聞けるという事はいいことですね。こういう機会はなかったので良かったと思います。
- 在宅の経験もない私にとって、グループの皆さんの熱い思いは驚きました。これからもっと勉強しなくては…。

- 気さくに話ができて良かったです。1人では気が付かないことも、皆で話をする中で気付くことも多かったです。
- それぞれの専門職の立場から色々な意見を交わすこと（情報交換）ができ、良かったです。
- 他職種連携が叫ばれる中、様々な研修にも参加してきたが、リラックスした雰囲気の中で思いを伝えることができたと感じました。
- とても楽しい会でした。山梨市民のために、他職種の皆さんと何かできる気がする。
- 意見が出なくて沈黙が続くかと心配しましたが、無用な心配でした。
- 多くの人達の意見が聞けたので良かったです。新鮮でした。
- インフラ整備、お金が必要。それと愛が必要。
- グループ毎に様々な分け方・考え方があり大変参考になりました。いかに実現していくかが問題になるかと思いました。ありがとうございました。
- 他職種の意見が聞けて、色々な視点を持てる場にもなりました。これに地域の方も一緒に加わると更に良いと思いました。
- テーマが漠然としていて難しかった。色々な意見が聞けて参考になった。できたら、昼間の時間帯が良かった。
- この会から、人がつながり大きなパワーとなって成果が形になるように…。楽しみです。
- 有意義な時間を過ごさせていただきました。
- テーマが重い中、共通話題で充分話し合えて良かったです。
- 他の職種の方のいろいろな意見が聞けて勉強になりました。発表では、考え方がほとんど一緒に、普段考えていること、感じていることは一緒なんだと思いました。
- 皆さんのいろいろな意見を聞くことができ、とても良かったです。
- 進行するにつれて、コミュニケーションが図られるようになり、またグループ内の変化がありました。話し合いの始めの進行時、ファシリテーターの介入がもう少し発言しやすい助言があった方がよいと感じました。各々のグループの発表で、色々な考え方があったことを知り、面白かったです。私達支援者が何をするか、何に目を向ければ良いかの気付きがありました。良かったです。
- 良かったです。次回が楽しみです。
- とても楽しく時間を過ごすことが出来たと思います。色々な意見を出し合い、またそれに向けて検討できて良かったと思います。ありがとうございました。
- 他職種の方からたくさんの意見が出て、自分の気付かなかった事にも目を向けられました。不安いっぱいでしたが、ワイワイ楽しく出来て良かったです。
- 色々な意見や考え方がわかりました。市の事業も色々あるのに、広報が少ないように思い、残念ですね！
- 様々な業種の方の意見や話が聞けて、本当の課題が見えてきたような気がした。
- 気軽に話し合いができ、その中でKJ法を活用することで、ギュッと詰まった話し合いができました。
- 色々な職種の人達と意見交換が出来て有意義でした。楽しかった。
- 時間が短く感じました。楽しかった。
- 他職種の方々との話し合いが、着眼点の違いなど、とても勉強になりました。
- 地域で他職種と、医療と介護について話し合うことができ、新しい共有ができたと思います。
- 様々な職種が集まって話をする機会は今まででもありましたが、連携が難しい等々、狭い話題だった気がしているのので、このようなテーマでのトークは新鮮でした。
- 日々の業務の中で、問題としてもじっくり考える機会がなかったように思えます。大勢の方の意見が聞けて良かったです。構えずに意見交換ができました。
- 色々な問題がわかった。行政関係の方々に参加しているのは、とても良いと思う。
- 有意義な意見交換ができました。日頃気づかないことについても知ることができました。また、他のグループの発表も参考にしながら、次につなげていきたいと思います。
- こういう形式の研修は2回目です。次回どのように展開し、最後はどのようになるのか、とても楽しみです。
- 良い企画で、専門職の連携にもなり、地域の濃さが出ていたと思いました。
- 第1回目、とても楽しく有意義な時間でした。他業種の方と色々なお話ができ、同じ想いの方がいて共感できて、とても心強かったです。今回の4回のみならず、こうした皆さんとお話できる場を、これからも沢山作って頂けたらとても嬉しいです。今日はありがとうございました。
- できれば始めに、「こんな市にしたいので、皆さんのお知恵を…」という流れにした方が良かったのではないかと思います。
- 同じことで悩み、考えている方々の多さを感じました。こうした語ることの大切さを感じます。次回が楽しみです。

ありがとうございました。

- 他職種交流により、1人で解決できない地域での課題を情報共有できたことで、視点が広がったと思います。
- 良いコミュニケーションがとれました。次の課題が楽しみ！
- 他職種が集まる意見交換・グループワーク、とても実りある時間でした。次回も楽しみです。
- 大きなテーマが皆の話し合いの中で少しずつまとまっていきました。連携は大事だと思いました。他のグループの意見も参考になりました。
- 他職種で顔合わせ・意見交換ができる機会はなかなか無いので、貴重な経験でした。次回も楽しみです。
- 他職種の色々な意見や感想、また現場での様子を聞くことができ良かったです。平日の夜ですので、できれば1時間～1時間半程度の会にしてほしいと思いました。
- 医療・福祉関係者だけでなく、地元の人を抱える課題も聞いてみたい。
- 他職種の方と話してみても良かったと思います。次回もまた参加します。
- 様々な職種の方の意見が聞けてよかった。
- いつもは全く考えないことも出てきました。ありがとうございました。
- 他職種の方の思いが聞けて勉強になりました。
- 地域在宅医療・介護の他職種が様々な問題を話し合い、共に考えることで、お互い顔が見える形で連携強化ができることがありがたいと思いました。
- 色々な視点の意見もあったけれど、共通のものも多く、面白かった。
- 様々な職種の方の立場の意見を直接聞くことが出来る機会となり、とても勉強になりました。熱い意見交換に感動しました。
- 他職種の方々の意見を聞き、とても勉強になりました。日々の業務に生かしていきたいです。
- いろいろな職種の方とお話することができ、連携や共有の大切さを学ぶことが出来ました。
- KJ法の具体的な方法について、もっと詳しく説明してもらう方が良いと感じたり、タイトルの付け方（表札の付け方）など、これで良いのかと悩みました。
- 日頃、在宅医療・介護の現場に触れることがないため、いろいろな職種の方の考えを聞くことがためになり、勉強させて頂きました。
- 何度もお会いしたことがある方や、お顔だけでも見たことがあるといった「馴染み」の方がたくさんいる中で、とても有意義な時間でした。「地域にこんなに強力な仲間がたくさんいる」と、心強い思いになりました。
- グループで話し合うことで様々な課題が見つかった。共通しているもの、目新しいもの、色々あったので、次回からどのように発展させられるのか楽しみです。
- もう少し話し合う時間が欲しかったかも？ 普段話することがない方々とお話できて良かったです。
- 多くの意見が聞けて楽しかった。認知症に限定した会もお願いしたい。
- グループごとに視点が様々で面白かった。そういう視点も有ると気付かされた。地域課題は把握できていないが、山梨県内にて高齢者に必要なものは何処も共通していると感じました。

第2回

平成28年7月26日(火) 19:00~21:30



(グループ毎 作戦発表の様子)

【今できていること】

市民が	<ul style="list-style-type: none"> ●情報が欲しい時、ご家族や近隣住民に聞ける。 ●広報などを見て、相談窓口を知って相談に来る。 ●近隣同士の口コミ ●気になる人に声掛け ●回覧板による情報収集 ●ホームページによる情報収集
私達が	<ul style="list-style-type: none"> ●入院・通院で関わる本人や家族への介護医療サービスの情報提供。 ●近所の高齢者の方との立ち話で、介護サービスについて聞かれたら、分かる範囲で答えている。 ●ちゃんとした(正しい)情報提供 ●訪問による相談 ●学生向けの講義や講座
行政が	<ul style="list-style-type: none"> ●パンフレット・広報・介護冊子などの情報提供。 ●高齢者の集まる場所での説明会の開催。 ●医療や介護について説明を行なう。情報提供。 ●広報誌の発行 ●社会資源一覧表(マップ等)の作成 ●パンフレットやチラシ作り ●社会資源についての出前講座 ●防災無線による広報(ミニデイ等) ●講演会・学習会 ●窓口相談(サポートやまなしし等) ●認知症について説明、見通しなど。 ●困った時の相談窓口

【すぐにできそうなこと】

私達が	<ul style="list-style-type: none"> ●病院に対して、施設の特長の説明。 ●相談しやすい環境作り ●どんな社会資源があるのかを知る。 ●関わる患者さんやご家族が社会資源を知らなければ、情報提供する。 ●皆で集まれる場所(スペース)の紹介(有料・無料とも) ●医療相談が気軽に出来る場の提供
行政が	<ul style="list-style-type: none"> ●必要とする家族に提案できる介護サービス一覧を作成する。 ●制度についての、よくあるQ&Aを大きな文字で作る。そして配布。 ●入院時における在宅関係者の早期の関わり。 ●分かりやすい制度について冊子を作ってもらう。 ●地域の社会資源を把握するため、一覧を作成する。 ●広報誌を活用して周知。 ●関われる職種と関われる手段等(資源)を再確認する。 ●医療相談できる場所の一覧を作成する。

【今後取り組むこと】

市民が	<ul style="list-style-type: none"> ●困った時、どこに情報をもらいに行くかを知る。
私達が	<ul style="list-style-type: none"> ●何か標語つくる(脳へのイメージ戦略)。(例:山梨市民はどんどん健康に長生きして人生を楽しんでいる) ●定期的にテーマを決めて健康情報を発信する。(例:今月は1日5千歩歩きましょう、口内を清潔にしましょう) ●市の介護サービスパンフレットにリンクさせて、山梨市の事業所の紹介チラシをつくる。 (例:統一フォーマット、事業所独自のPR) ●医療・介護サービスにつながっていない方への情報提供。 ●在宅医療(往診や訪問看護)の機会を増やす。 ●認知症の早期発見のためのスクリーニングシートを家族に渡す。 ●介護についての学習会、講演会。 ●訪問や対応した人に職種や仕事の内容を伝えて知ってもらう。 ●健康余命を出来るだけ延ばせるよう、各種健康教室を開く。(運動、食事指導など)
行政が	<ul style="list-style-type: none"> ●市内の医療や介護の相談窓口などをまとめたチラシを配布する。 ●広報活動(読み物) ●出前講座的に相談窓口情報をキャンペーンする。 ●様々な相談会の開催情報をCMで流す。 ●市民が無料で相談できる機会を増やす。(例:電話・メール・窓口など) ●変わっていく制度について、わかりやすく説明できるよう資料を用意する。

《作戦》

1グループ	チーム名:『インフォメーション』
テーマ	「住み慣れた自宅で生き生きと生活することを支えるために」
何をやる	それぞれの立場で介護と医療の情報提供を行なう。
いつやる	今すぐできるでしょ!
どこでする	それぞれの職場で
誰がやる	全員
どんなふうに	<ul style="list-style-type: none"> ◆山梨市の『みんなのあんしん介護保険』、『認知症になっても安心して暮らせる山梨市』のマップ部分等を使用し、丁寧に説明する。 ◆ケアマネージャーからの情報提供、チラシの活用等。

【今できていること】

私達が	●サイボーズの活用。
-----	------------

【すぐにできそうなこと】

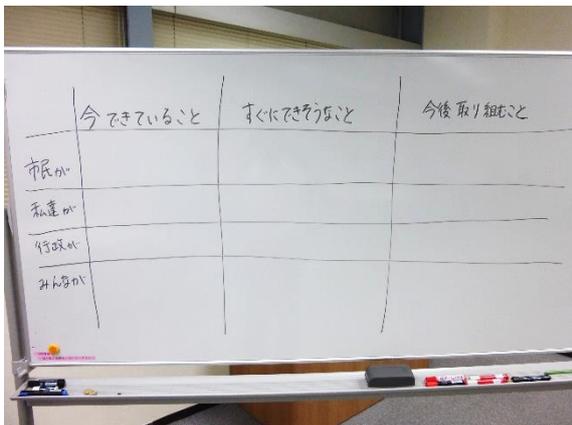
市民が	●民生委員が地域の方の把握をする。 ●家族介護者とケアマネ同士で、真の気持ちを伝える。
私達が	●遣り取りが迅速で、キャッチボールが繰り返せる。 ●継続看護連絡票の有効活用。 ●支援者同士が遠慮なく話せる環境(いつでも問題提起できる関係)。 ●できるだけ対面で伝え合う。 ●連絡シートの活用。 ●在宅の様子等はケアマネが速やかに。 ●タイムリーな情報交換。 ●患者・利用者のハートを掴んで情報を絞る。 ●誰が中心となって情報を流すか。 ●家族の要望を共有(訪問時に話したこと等)(タブレット等)に書き込み。 ●「家ではこうだった」「病院の様子はこうだった」といった先入観を無くす。
みんなが	●顔の見える関係をつくる。 ●受診時に変化のあった事(服薬など)の連絡を密にする。

【今後取り組むこと】

市民が	●地域住民同士の交流(情報のみでもよい)により、知らない人がいない地域にする。
私達が	●総合病院の窓口の拡充。 ●ケアマネージャーからの入院時の情報提供(用紙のみ)。 ●受け入れられる窓口をオープンにすること。情報発信した時、そこで止めないようにする。 ●介護側・医療側でお互いの欲しい情報を伝え合う。 ●入院中の患者の情報交換(患者の段階と合わせて)。 ●入院中の自宅訪問。 ●病院からの情報を誰が伝えてくれるか明確に。 ●情報のキャッチボールが出来ると良い。 ●病院から退院時の情報提供(CCも含む)。 ●情報の中身を考える。(伝えたい事から必要な事に) ●伝えたい事を、ポイントを絞って伝える。

《作戦》

2グループ	チーム名：『ピーチ』
テーマ	「利用者の情報を共有する方法」
何をやる	各機関ごとに得たい情報を調査する
いつやる	随時
どこでする	それぞれの職場
誰がやる	全員
どんなふうに	インタビュー



第2回目 作戦を立てて実行へ。 3グループ

【今できていること】

市民が	●部落(区)での行事(運動会・敬老会) ●元気な人が、自分より高齢の人を見守る。 ●ゲートボール・老人会 ●井戸端会議 ●無尽(地域)
私達が	●健康維持への声掛け ●健康教室 ●おたっしや貯“筋”塾
行政が	●健康診断 ●元気あつぷ教室 ●健康相談(行政)、市の健康診断
みんなが	●健康づくり、ウォーキング、ラジオ体操 ●定期的な体操 ●市役所で朝に行なっているラジオ体操

【すぐにできそうなこと】

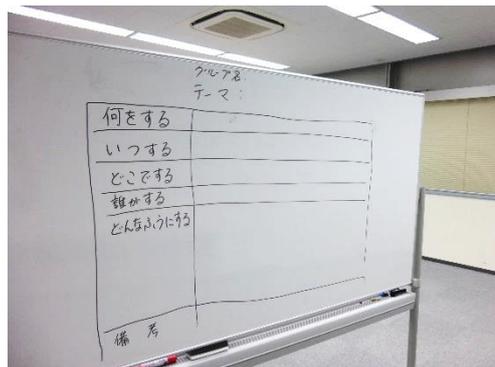
市民が	●公民館に集まってラジオ体操 ●男性向け料理教室 ●食育推進委員との連携 ●食事管理・服薬管理
私達が	●連絡網の構築 ●出前講座(みんなの専門性を生かして、地域の声を吸い上げる目的も) ●100歳体操 ●健口体操のアピール ●それぞれの部署でラジオ体操(強制) ●朝に近所同士でラジオ体操
行政が	●歯科の定期受診 ●趣味の講座
みんなが	●自分にできることを、それぞれが考える。

【今後取り組むこと】

市民が	●3づくり運動の推進
私達が	●(在宅も含む)かかりつけ医、かかりつけ薬局を探す連携づくり。 ●健康診断の結果の共有→医療へつなげる。
行政が	●空き家の活用 ●地域サロン・地域ネットワークを市がつくる。(推進・啓発) ●アンケートの実施。(市民が困っていること、望んでいることを知る)
みんなが	●木材を使った人形作り ●サロンづくり ●そば・ほうとう作り ●自分達の力で地域の声を実現 ●将来的な医療や方向性の提案・イメージ

《作戦》

3グループ	チーム名：『SUNグループ』
テーマ	「SUNづくり運動 ～地域づくり、健康づくり、生きがいづくり～」
何をやる	啓蒙・啓発 (リーダーづくり)
いつやる	8月19日(金)
どこでする	牧丘地区民生委員会で
誰がやる	チームメンバー
どんなふうに	民生委員さんの話し合いの場で20分程時間をいただく。 ◆内容：①医師からの話 ②セラピストによる100歳体操 ◆民生委員さんの困り事を傾聴する。できれば2回実施する。アンケートを実施する。



【今できていること】

意識ある 人が	<ul style="list-style-type: none"> ●ご本人をよく観察すること。 ●ご家族との会話を多くもち、ニーズを引き出す。 ●(東山梨医師会の事業では)情報共有のためのタブレット端末を、関連する職種の人に配布。 ●困ることを聞き出す。 ●状態変化時の迅速な情報連絡。 ●訪問時の本人の様子、家の中の様子を関係者に伝える。 ●今できていることを、サービス(業務)の中で報告・連絡する。(サービス日の夕方、入院時、退院時等) ●家族から聞き取りをしたり、本人の様子を伝える。 ●お隣さんや民生委員と関係づくりをする。 ●実際にサービスを提供しているヘルパーさんから直接話が聞ける。
------------	---

【すぐにできそうなこと】

意識ある 人が	<ul style="list-style-type: none"> ●サービス(業務)外の“取るに足らない”情報を伝える。(互いに多忙につき、時間的余裕があるかどうか?) ●ご本人とコミュニケーションを図る。 ●好きなこと・笑顔になる場面の共有。 ●地域(近所)とのネットワーク ●民生委員さんと1ヶ月に1回連絡を取る。 ●生活の中のちょっとした話、良い事でも悪い事でも、情報を共有する。 ●本人の声を聞くように、時間に余裕を持ち、関わりを持つ。 ●本人・支援者が共有できるような、『介護予防手帳』『終活ノート』の活用。
------------	---

【今後取り組むこと】

意識ある 人が	<ul style="list-style-type: none"> ●小さな情報でも、本人が嬉しいと思うことを情報としてカンファレンスで提供する。 ●ご本人・家族との信頼関係を築く。 ●得意なことを生かせる生活を考える。 ●楽しんで出来ることを、たくさん持つように生活する。 ●近所の人と友達になる。 ●医療・介護の場共通の『情報シート』のようなものを作り、活用する。 ●その人の生活について、継続的に情報を伝えられる場をつくる。(退院後の生活等) ●気付いたことを、気軽につぶやける場をつくる。 ●気軽にできるサイボウズの活用。(支援者のつぶやき等)
------------	---

《作戦》

4グループ	
テーマ	「生き生きと生活するための情報共有」 ～『生き生き発見ノート』の記入をやる～
キャッチコピー	「あなたを応援するために、あなたをもっと知りたいの」
何をやる	生き生き発見ノートを作成し実際に使用する
いつやる	8月30日までに
どこでする	関わっている市民の家で
誰がやる	本人、家族、各事業所の職員
どんなふうに	生き生き発見ノートを使用してみて、気づきなどを話し合う。市民が明るくなるような内容を聞き取り記入する。その人が頑張っていた時代や今も楽しんで取り組んでいることなどを意識的に聞き取るよう意思統一する。



【今できていること】

市民が	[問題点を振り返ると] 参加者が少ないから行きにくい。(数少ない参加者がいるだけ)
私達が	[問題点を振り返ると] 私達自身、ほっとスペースで何をしているのか知らない。説明ができない。 [問題点を振り返ると] 周知方法が弱い。

【すぐにできそうなこと】

市民が	●認知症家族会の協力 ●隣近所で御誘いの仕組み ●民生委員さんからの勧め [来る8月10日に民生委員の集会があり]
私達が	●より多くの病院の窓口に置く。 ●ポスター(既存のチラシ)を作成し、医療機関に掲示する。 ●SNSの活用、バスの広告、ポスター掲示。 ●住民(認知症の人と家族)の希望を聞く。
行政が	●市の広報での告知、チラシ配布。 ●町内放送を流す。 ●広告、市営バスの中吊り。 ●地域(全戸)の回覧板。
みんなが	●本人・家族に何か役割を持ってもらう。 ●偏見を無くす。 ●認知症の人の“昔取った杵柄”を活かす。 ●承り式を辞める。 ●明るい(軽い=気軽な)場所で。 ●買い物・通院等と絡めて行なう。 ●敷居を下げる。 ●現在実施している会場の人数を増やす。

【今後取り組むこと】

市民が	●ボランティアの活用。 ●認知症サポーターの育成。
私達が	●公民館や街の駅等で実施してみる。
行政が	●市営バスの活用。
みんなが	●継続性をつくる。(料理教室など) ●デイサービスと協力する。(外出レクの場として) ●集めるにはカルチャースクールと合同開催する。 ●フリーペーパーとコラボして、クーポンを付ける。 ●サポーターを活用させるためには、持っている知識を引き出させる。 ●送迎する。 ●オレンジリングのプレミアム感を出す。

《作戦》

5グループ	チーム名：『チームグレープ』	
テーマ	「New ほっとスペースをつくろう！」	
何をやる	現在の相談人数3組を6組に増やす	
いつやる	8月20日	
どこでする	日下部記念病院内	
誰がやる	私達チームグループ	
どんなふうに	広報活動	◆チラシの配布(今まで以上に) ◆民生委員の集会でアピールして、チラシを配る。 ◆SNS、バスの中吊り、回覧板 ◆町内放送、家族会の協力
	傾聴活動	◆ご本人・ご家族の健康相談、口腔ケア、関わり方の具体的アドバイス。 ◆話に耳を傾ける、かき氷のサービス。



【今できていること】

意識ある 人が	<ul style="list-style-type: none"> ● どう暮らしていきたいか。(生き方について) ● 人生の物語(生い立ち)を知る。 ● 時間を掛けて、本人と信頼関係を築く。 ● 発信された情報と、受け取った情報に相違がないか確認する。 ● 希望(未来の夢)があるか聞く。 ● 今まで生きてきた中での思いを聞く。 ● 本人と何回も話す。 ● 主治医に本人の状況を伝えておく。 ● 他職種の仕事をよく知る。 ● 『語る会』に参加する。 ● 大切にしてきた価値観は何かを知る。 ● その人を支える専門職が必要。 ● これまでの人生で楽しかったことは何かを知る。 ● 好きなこと(もの)、楽しみを知る。 ● 困っていることを知る。 ● 常に変化する今の気持ちを知る。
------------	---

【すぐにできそうなこと】

意識ある 人が	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門性を超えた出来ること、知っていること。 ● 連絡の取り方を工夫する。 ● 3ヶ月後、半年後、1年後…、の自分のイメージはどうか聞く。 ● 本人の代弁者がいるのか確認する。 ● 本心を話せる人がいることが必要。 ● 本人の思いをくみ取れる人が必要。 ● 前向きな気持ちに導く。 ● 誰に本音が言えるのかを知る。 ● 本人が思いを伝えられる人の存在を知る。 ● 本人を良く知っている人を知る。
------------	--

【今後取り組むこと】

意識ある 人が	<ul style="list-style-type: none"> ● 本人が「自分の思い」を改めて考える場を提供する、きっかけを与える。 ● 家族が「本人の思い」を改めて考える場を提供する、きっかけを与える。 ● どんな風に最期を迎えたいか聞いておく。 ● 『語る会』と『ピアサポート』 ● テンプレートがあると使いやすい、イメージしやすい。 ● 延命治療を望むかどうか確認しておく。 ● その時々思いを共有する時間・方法。 ● エンディングノート
------------	---

《作戦》

6グループ	
テーマ	「本人の思いに寄り添いながら連携する」
何をやる	要介護状態で在宅療養中の市民から話を聞き取る
いつやる	訪問の際
どこでする	ご自宅で
誰がやる	グループのメンバー
どんなふうに	本人がどのような思いで毎日を過ごし、最期はどのようにしたいと思っているのか、時間をかけてゆっくりと思いを聞き取る。



【今できていること】

市民が	<ul style="list-style-type: none"> ●おいしいお菓子やお茶を食べに行く。 ●私の作った漬物を「美味しい」と言って食べてくれる友人が来る。 ●趣味活動(囲碁など)を誰かと一緒にできる。 ●家事や畑仕事ができる。 ●近所の人の生活に気を配る。(声掛け、近況を聞く)
私達が [専門職が]	<ul style="list-style-type: none"> ●受診者・利用者に対して、「来ていただいてありがとうございます」の言葉かけ。 ●本人の出来ることを発見する。 ●「〇〇さんがいてくれて助かった、ありがとう」の声を掛ける。 ●外出できる環境をつくる。 ●その人のことを知る。 ●事業所と本人の接着剤になる。(つなげる役割) ●体や頭を使う楽しさを与える。 ●困り事の相談にのる。 ●困り事を聞きに来る。(ケアマネ)
行政が	<ul style="list-style-type: none"> ●コマーシャルをする。(広報) ●さり気無くその方の職業を聞いて、できそうなことを支える。 ●その方の話を聞く。(コミュニケーション) ●健康教室の紹介。

【すぐにできそうなこと】

市民が	<ul style="list-style-type: none"> ●近所の人イベントに誘ってもらう。 ●自分の事をお話できる場所を作る。 ●無尽などの集まり ●自分の買いたいものを買物できる。 ●月に1回は孫に会ってもらう。小遣いを渡す。 ●市役所で実施されている〇〇教室 ●町のイベント(お祭り)の企画・紹介 ●感謝の言葉・気持ち、「ありがとう」を伝える。 ●近所の人にあいさつをする。
私達が [専門職が]	<ul style="list-style-type: none"> ●丁寧に診てくれる。 ●美味しく食事が食べられるようにする。 ●受診の際、次回も病院に行こうと思わせるような声掛けをする。「またお待ちしております」のような。 ●目的の物や場所に、手に入れる知恵や力を伝えられる。
行政が	<ul style="list-style-type: none"> ●『みんなで集う場所』がどこにあるか周知する。 ●集いの場所や日時の宣伝をする。 ●自分の役割が決められている。(することがある) ●親しい人と気軽に話せる。 ●いつも笑顔で迎えてくれる。 ●良く話を聞いてくれる。 ●優しく接してくれる。
みんなが	<ul style="list-style-type: none"> ●本人が生き生きと出来る場所へつなげる。 ●出来ることを増やしていく。応援していく。 ●笑顔の素敵なあの人の所へ行く。 ●おいしい食事が食べられる。

【今後取り組むこと】

市民が	<ul style="list-style-type: none"> ●本人・家族に役割(仕事)を持ってもらえる働きかけ。 ●時々、一緒に買い物に行ってもらう。食べたい物を買う意欲を。 ●お買い物ツアーのバス ●カラオケに行く。 ●美容院の送迎サービス ●買い物をしたいと思う働きかけを。
私達が [専門職が]	<ul style="list-style-type: none"> ●月に一度、決まった日に何か集会を企画する。 ●近所の人に声を掛けて、施設で体操教室をする。 ●病院等から訪問やサービスが来る。 ●介護サービスで担えない事をきちんと行なってくれる団体・組織がある。
行政が	<ul style="list-style-type: none"> ●移動サービス ●ボランティアの育成(人材登録) ●調理教室をつくる。
みんなが	<ul style="list-style-type: none"> ●老若男女・障害者問わず、皆で助け合いの町に。 ●カラオケ大会を企画する。

《作戦》

7グループ	
テーマ	「教育(今日行く)・教養(今日用がある)」
何をやる	その人の思いを聴く
いつやる	明日から次回(8月30日)まで
どこでする	各地域や事業所
誰がやる	私達・スタッフ(職場の)
どんなふうに	一番の楽しみ(行動)をきいてみる

【今できていること】

私達が	<ul style="list-style-type: none"> ●服薬管理を行なう。 ●口腔ケア(入れ歯の調整等)をきちんと行なう。 ●服薬がしっかりでき、体調の良い状態でいられる。
みんなが	<ul style="list-style-type: none"> ●季節が感じられる食事 ●行事食を食べる機会を持つ。 ●自分で調理して食べることができる環境 ●うまく出来たら褒めてあげる。

【すぐにできそうなこと】

市民が	<ul style="list-style-type: none"> ●家族と共に外食をする。 ●仲間と食べに行く。(外で食べる) ●誰かと一緒に食べる。 ●生活リズムを整える。{起床・朝食・昼食・夕食・活動(できること)・睡眠} ●規則正しい生活が出来て、食事の時間におなかが空く。
私達が	<ul style="list-style-type: none"> ●口腔ケアの実践(入れ歯洗浄を行なう) ●家族指導(家族の介護負担の軽減) ●食形態の見直し・検討。 ●その人の身体状況に合わせた食事内容。 ●適切な食形態で食事する。 ●食べ物を提供する際の工夫。 ●視覚へのアプローチ ●経口摂取することの危険、合併症、予防の方法の知識。 ●食べられる力・能力に合った食事
行政が	<ul style="list-style-type: none"> ●嚥下の評価、口腔体操等の指導。 ●集まる(イベント)きっかけを。 ●環境の整備 ●楽しく食事ができる場所 ●食前の嚥下体操
みんなが	<ul style="list-style-type: none"> ●疾患の理解 ●「食べること」に関して自発性が出てくる食事環境をつくる。(介護し過ぎない等) ●誤嚥に注意した食べ方が身についた等、褒めてあげる。 ●食事を作る過程への参加。 ●口の中の環境を良くする。(嚥下力・口腔ケアをアップする) ●姿勢を正す。 ●おなかが空いて食欲が増すよう、運動を行なう機会を持つ。 ●嚥下機能を保つことができる。 ●本人が食べたい気持ちになるように時間を掛けたコミュニケーション。 ●ありのままに食べられる。(過剰な世話焼き) ●良い姿勢をとって座ることができる。

【今後取り組むこと】

市民が	<ul style="list-style-type: none"> ●歯の定期検診(口腔ケアがしっかりできる) ●歯科受診をきちんと行なう。 ●隣同士で食べてもらったりしてみる。 ●口腔内の清潔を保つ。(味覚を感じられるようにする等)
行政が	<ul style="list-style-type: none"> ●食べ物を買いに行ける環境 ●安くおいしい食事の普及 ●食の知識
みんなが	<ul style="list-style-type: none"> ●個食を減らす。 ●食材に触る。(手伝える範囲で、触ったり、こねたり、切ったり等する) ●好きな物は何なのかを知る。(情報収集) ●食べたい料理を聞く→みんなで作る→みんなで食べる ●本人と一緒に調理することで、食に対する準備ができる。 ●離床して食べる。 ●自分が食べたい食事が摂れる。 ●自力で食べる。 ●独居でも食事に困らない。 ●口腔内の清潔が保てる。 ●むせないで食べる。

《作戦》

8グループ	
テーマ	「安全で楽しい食事」
何をする	食事の現状を知る(姿勢)
いつする	明日から8月30日まで
どこでする	それぞれの支援現場
誰がする	グループメンバー
どんなふうに	<ul style="list-style-type: none"> ◆食事の姿勢を写真に撮る。 ◆次回(8月30日)に写真を持ち寄り、評価する。

第2回 「山梨市在宅医療と介護を語る会」 アンケート

- 今回も様々な立場から様々な意見を聞くことができて良かったです。
- 大変なことになってしまった。どうしましょうか。
- 正直内容が難しく、ついていけない部分もあった。発言しづらかった。
- 活発な意見を頂き、課題が発見できた。在宅での困難感を更に感じましたが、光が見えた気がします。
- 自分とは違った視点で話し合うことができた。テーマは「生き生きと生活するためのポジティブな情報」を集める、という事を実践することになりました。困り事の情報ではなく、良いこと、好きなことについての情報を集めるという視点はなかったのが、新鮮な気持ちで取り組んでみようと思います。
- みんなの考えをまとめることの難しさを感じた。
- 自分の中だけで悩んでいた事が、同じ疑問や悩みを共有でき、先につながる期待も感じる事ができた。「どうせ無理だろう」という小さい考えが洗われた。
- 具体的な取り組みに辿り着くまで、かなり苦戦しましたが、次回までにそれぞれの情報を持ち寄る事を楽しみに思います。
- 利用者様の新たな発見が出来そうな情報共有のツールが生まれそうで期待しています。サービス事業者さんには、お忙しいと存じますが、協力してもらおうと思います。
- 他のグループを聞くことで、発想の違い・発想の豊かさを認識しました。ポケモンGOで歩数が増えたという話も勉強になりました。
- 難しいテーマでありましたが、皆で考えていくと共有が出来て良かったと思います。
- 実際にやってみるのは結構大変そうですが、皆さんからの情報で、次にいいものができると思いいます。
- なかなか大変なテーマですが、どうしたらいいか…?
- 参加者それぞれの考えを聞くことにより、また大勢の意見を聞くことで、素晴らしいアイデアが出てくると思います。
- 生き生きと生活することを支えるために、生き甲斐を持つ事が大事であること。それぞれの専門職の力だけでは不十分で、皆が職域を超えて力を合わせる事。
- 地域の中で活躍されている他職種の方々から、実際の支援の様子を聞くことができたのは貴重な時間となった。
- 様々な意見があり、とても勉強になった。
- テーマを決める事の難しさを感じました。
- メンバーの方々と話し合い悩んで、やっとテーマと具体案が決まりました。結構苦しかったです。毎回思いますが、自分でない人の意見を聞くことは本当に勉強になります。司会を率先してやってくださる一人ケアマネさんもいて、頼もしかったです。
- 難しかった。
- 具体的な行動計画を立てるのが難しかったです。いろいろなグループの意見も聞くことができて参考になりました。
- 初めはなかなか進まなかったが、何とかまとまって良かったと思います。「できそうなこと」を取り組むキッカケとなった回でした。
- ありがとうございました。難しい課題について本気で考え、一つになった気がします。また次回が楽しみです。
- 私達のグループでは、食事をテーマに話し合いました。毎日同じように食べる（介助している）ことでも、こんなに色々な要素があるのだと勉強になりました。他人の意見って大切ですね。
- ムズカシイ！
- グループワークが円滑に進み、職種の違うグループならではの、目の付けどころが違う意見が出て、有意義な話し合いができたように思います。
- 在宅生活を支えるためには、いろいろなことが意見として出ました。しかし、「食事がしっかり摂取できている方は元気」との話から、基本である食べる事に焦点を当てて取り組むことで、現場でそれぞれが改善につなげられそうです。
- 色々な職種の方がいて、お話を聞くことができ良かった。一人では浮かぶ案にも限界があるが、他職種の方と同じテーマで話し合うことで、色々な視点での意見を聞いて良かった。
- 今回初めて参加させていただきました。他職種での語る会であったので、病院内で情報共有できていない部分を知ることが出来ました。主催お疲れ様です。勤務の都合で以降の参加が出来ません。今後の活躍を期待しています。
- 同じ課題についても他職種で考え方が違い、良い意見交換ができ、学びになった。

- 楽しかったです。一つの目標に向かって知恵を出し合うって楽しいですね。
- それぞれの立場の違いがあり、共通して取り組むテーマの選定は困難に感じました。しかし、決めたテーマを今後深めていける事を楽しみにしています。
- みんなで話し合うと、良い案も出やすい。ナイス！
- テーマがなかなか決まらず、ターミナルという重いテーマも提案されたが、いずれは全ての方について考えていかなければならないと思う。
- 多種多様に意見があり、面白かったです。
- 2回目になり、メンバーとも慣れたせいか、積極的に意見が出し合えたと思う。とても有意義な時間を過ごしている。
- 「生き生き過ごす」→「体が元気であれば氣力もついてくるのではないか」→「食べることが出来ている人は元気な人も多い」という視点から、食事についてテーマを絞りました。生き生きと過ごす事がどのようなことか、生活の中で具体的にどういう場面につながっているのか等々、それぞれの職種の観点から思う“生活の場”が多様であることに驚きました。『食事』という一場面でも注目するポイントが異なり、とても面白かったです。
- 今回も有意義でした。
- 熱心な関係者が地域にいることが分かり、顔が見える関係づくりの場となります。
- 『ほっとスペース』が少しマンネリ化していたので、とても強い刺激になりました。人集め、頑張りたいと思います。
- 専門職としての自分の役割を考えるきっかけになり、とても良かったと思います。
- 良い取り組みなので、今後も定期的にも実施できると良いのでは。
- 各職種の方が、それぞれ何を大事に思っているかが感じられて良かったと思います。
- それぞれの職種・立場の中で、情報を共有するために何を必要とするのか、意見交換ができて良かった。また、他のグループの発表を通じて、それぞれの視点・取り組みを聞き、参考になった。次の発表が楽しみです。
- 高齢化社会の中で、行政・医療・介護関係者が一体化して社会を支える仕組みが構築されつつあることを改めて実感した。今後はより多くの市民を交えて、更なる進化を期待します。今後も少しでも協力できたらと思います。テーマ以外にも、意見を提案できるアンケート箱を設置してみればいかがでしょうか。
- 今回初めての参加でしたが、大変勉強になりました。取り組まなければならないことが多いので、一つにまとめるのは難しい作業でした。色々な意見を聞くことができるので、参考になります。自分の中の気づきが増えました。
- 具体的な意見が出るまでに時間が掛かりましたが、何とかまとめ上げることができました。
- いつもは仕事でお会いする方に、このような形でお会いして、話し合っ、考えをまとめていくことがとても楽しく感じます。
- 今回は語る会の中の佳境となる回で、テーマを絞るところが一番難しく時間も掛かりました。しかし、皆さん専門職で先を読んでいる方ばかりなので、どんどん話し合いが進んでいきました。次回までにそれぞれ取り組んで持ち寄りますが、凄いいものができそうで楽しみです。やっぱりプロは凄い！

第3回

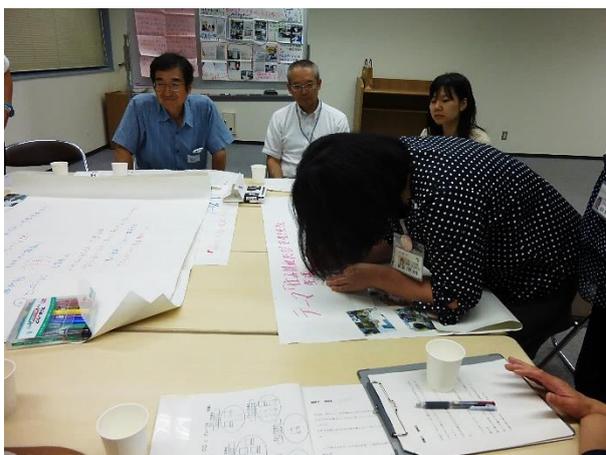
平成28年8月30日(火) 19:00~21:30



(各グループ 熱心に取り組み中)

第3回目 実行した作戦の成果と課題の話し合い。

【1グループ】



【2グループ】



【3グループ】



【4グループ】



【5グループ】



【6グループ】



【7グループ】



【8グループ】



【全体の様子】



第3回 「山梨市在宅医療と介護を語る会」 アンケート

- 2時間30分という時間があっという間でした。学生時代を思い出すような感覚です。1人（1施設）では困難な事も協力すれば何とかなる。もっと地域が良くなるように頑張りたいです。
- 他の人達の意見を聞くことで、今後の参考になりました。
- 他職種が集まって活気があって良い。みんなで知恵を出し合えば何でも出来る事が分かったけれど、頻度が多いと「ちょっと大変かな」と思う。
- 個々で取り組む時に、結果と課題、解決方法を提示しておくの良いのかなと思いました。
- いろいろな方とお話すると一方的な考え方しか出来なかったのが、自分では考えられない解決法や知恵が出てきて、大変勉強になりました。
- 写真をグループに分けていくのが大変だった。今後の課題はたくさん意見が出たけれど、無理せずに出来るようなことを皆で考えようということになりました。
- グループテーマに沿った写真を個々に持ち寄り、まとめを行ないました。みんなで持ち寄ることで、また別の視点からも考えることができ良かったです。また、今日の終盤では、今後の取り組みについてたくさんの意見が出ました。山梨市としても是非良い取り組みについては実行していただきたいと思います。
- 今回の話し合いの資料集めも、みんなが主役で本気で取り組んでいて、少し手を抜いていた自分が恥ずかしくなりました。あと1回、みんなに負けないよう頑張って、ここで学んだことを仕事に活かしていきます。
- 1回目・2回目で話し合った悩みや自分達が出来たことを、「実践して、それを評価する」というスタイルで行なってきました。話し合うだけで終わらず有言実行できる力を備えて、市のことを真剣に考えている医療・介護職の方々如山梨市にはとても大勢います。山梨市の未来は大変明るいと考えました。参加者全員が、参加する姿勢そのものが大変良いと思いました。
- 専門職同士での活発な意見交換の場となっていて、とても刺激的でした。みんなで協力して築き上げることがとても楽しかったです。サークル化など、これからも継続して出来ればとても有効だと思います。
- 前回欠席しましたので、ちょっと出遅れた感じでした。各グループの発表がとても楽しみです。
- 本日も遅くまでありがとうございました。
- 実際に『生き生き発見ノート』を活用してみて、その方の人となり、昔好きだったことが分かり、距離が縮まった気がしました。
- 自分達の取り組みが形になって見えてきた。徐々に達成感が湧いてきて、更に取り組みを頑張ろうと思える。チームでの団結力が大きな成果をもたらすことが良く分かる。楽しい。
- 前回参加して、仲間意識が一層強化できたように思えます。今後、サークル活動として継続していきたいと考えています。
- グループメンバーと話ができて、楽しく出来ました。
- 市民への情報提供の難しさを改めて感じました。市役所の皆様、お疲れ様です。
- グループワークの時間が少し長時間なので、もう少し短時間でお願いします。このような大勢の集まりはとてもありがたいので、今後とも顔が見える形で連携を強めていけたらありがたいです。
- 「利用者の情報を共有する方法」 少しずつ具体的に形に成りつつあります。実践するには困難もありそうですが、皆で努力できると良いと思っています。
- 初めて参加しました。食育推進会議でも取り上げることができると思いました。楽しい食事を一生続けていくためには、介護職・歯科医・その他食に関わる職種の方から、口腔機能に併せた工夫を寄せ集め、それを市民に情報提供する場ができれば良いと思います。
- チームメンバーが想いをストレートに出し合えて、楽しく話し合うことが出来ました。時間がとても早く過ぎました。次回、最終回を迎えるのが楽しみです。
- 次回につなげて継続していくためには「どうしたらよいか」と考えます。忙しい中、チームを引っ張ってくれた方に感謝です。
- 8月20日にイベントを開催して、今日の語る会に臨みました。チームの一体感が更に増して、良い話し合いが出来ました。次につながる予感ありありです。
- 今回、とても有意義な時間になりました。また、古屋先生からの次回に向けて（サークル活動で）という話には、とても嬉しい事でありました。この4回に亘る会が終了しても、このような他職種の方々との交流はとても大事だとつくづく感じました。今後も何らかの形で継続してもらえれば嬉しいです。

- 表札ごとにグループ分けしたものを文章にしていく過程が一番難しかったです。学んだことや感じたことを言葉にするのは大変だと感じました。
- 活発な意見や方向性がスムーズに進み、あっという間に仕上がっていくのが素晴らしい。自分と違う視点からの意見も参考になった。グループワークの真髄に触れた気がした。
- 楽しく行なえました。時間があっという間でした。ありがとうございました。
- 多職種の力を感じました。参加して楽しかったです。
- 積極的な話し合いが出来たこと！ 無理なく出来ることを考えて行動することが一番ですね。“行動”です。
- 様々な職種の方の意見が伺えて、とても勉強になりました。
- 話し合っていけばいくほど、考えさせられるところが出てきました。色々な意見が聞けて良かったです。
- 実際にノートを書いてもらって、良いこと悪いことを出し合うことで、日常において何が出来るか、より具体的に考えることができた気がします。
- それぞれが実践した様子を写真に収めて報告しあったことで、内容を深め課題分析ができた。
- 疲れしました。心地良い疲労感です。
- 最初はよく分からないことが多かったが、話し合っていくうちに、まとまってきて良かったです。
- 今回の取り組みを通じて、新たな認識を持つことができて良かった。
- このように集って、研修会も継続していくことが大切だと思います。
- 3回目となり、みんな何をするか分かっており、悩みなながらも和気あいあいと作業が進みました。
- 今回取り組んだことは非常に良いことだと思うが、私達のグループが継続して行なうことは大変なことだ、という意見がありました。
- 役割や立場が違くと、同じチームであっても違った意見が出てきて、沢山の気づきがあった。
- 写真が多くあれば、振り返ることができて、次への発想が生まれる。
- 第1回目から2回目・3回目へのつながりがあり、グループ全体もまとまりが出てきました。1回毎の積み重ねで何かの形が見えてきたような気がします。
- テーマが難しいため、前半はスロースタートでしたが、色々なアイデアを盛り込んで内容も充実できたと思います。
- 今回は多職種の人達が同じグループの中でテーマに沿って話し合いました。それが自分とは思いつかないような意見が出てきたことが、自分の視野を広げられることになります。参加して良かったです。
- 何とかまとまったみたいです。疲れた！
- 今回の研修は楽しくできました。話し合ったものが形となり視野に訴えることで、とても分かりやすくまとまりました。
- 本人の思い、家族の思い、医療的に必要なこと等、様々な側面の妥協点を見つけることの難しさを改めて感じた。
- 前回参加できず、なかなか話が見えなくて勿体ない思いでした。現在、在宅介護している身です。2時間半、家を空けるとするのは、とても大変だと実感しています。その分、有意義なものにしたいと思います。
- 『生き生きノート』の活用について、短期間に目標を見つけられるきっかけになった。反対に、ノートに対する抵抗も有るなど課題も残ったと思います。
- 実践した内容を振り返り、このグループだからできたことだと改めて感じました。
- この会に出てきたことを、地域づくりのために如何につなげていくかが、とても難しいことであるかと思っています。
- 仕事終わりで心身共に疲れていますが、有意義な時間を過ごすことができました。
- 実践した取り組みを模造紙に記入していく中で、チームワークを感じることもできた。皆が同じ意識を感じることもできた。今後、今回の取り組みをどうやって続けていくかが課題である。一過性のものにならないようにできれば良い。
- 結論(まとめ)を出すのが難しいことだと思います。次回までに自分でも整理したい。
- 前回欠席したため、内容についていけず申し訳なかったです。この会の主旨の再確認が必要なのではないかと思いました。
- 私達のチームでは『生き生き発見ノート』を作成しましたが、何とか導入を試みても難しいケースでした。だけど、今日話し合ったことで再びトライする勇気を頂きました。
- 最後まで辿り着けてホッとしました。

第4回(報告会)

平成28年9月27日(火) 19:00~21:30



(望月清賢市長よりあいさつ)

報告会 1グループ

チーム名 『インフォメーション』

テーマ/『住み慣れた自宅で生き生きと生活することを支えるためのインフォメーション』

※平成 28 年 7 月 27 日より、それぞれの職場で**インフォメーション**開始！

【これまでに取り組んだこと】

新規相談	市役所来庁者への初めての相談(新規相談)
	利用者様への説明(施設相談)
	入院患者様への説明(病院相談)
情報提供	市の職員より家族へ説明
具体的な説明	ケアマネージャーによる自宅相談
切れ目のない継続的な情報提供	ケアマネージャーによる自宅相談
	ご本人への説明
利用した資料	市の案内誌 『みんなの安心 介護保険』
	市の案内誌 『認知症の人を支えるための市内の機関一覧マップ』
	ケアマネージャー便り (茄子川ケアマネージャー制作)
話し合い	過去3回の『在宅医療と介護を語る会』でのグループワーク

【今後取り組んでいくこと】

必要な情報を提供するための多職種連携
パンフレットの継続活用
必要時の適切な情報提供



【まとめ】

市民が安心して住み慣れた自宅で生き生きと生活する事を支えるために必要な事の一つは「インフォメーション」だと話し合いました。それを実現させる為に、『みんなの安心介護保険』『認知症支援マップ』『ケアマネ便り』を使い、それぞれの立場・職場で一般市民に向けて説明をしました。

具体的には、市役所や施設、病院での新規相談、身近な人への情報提供、ケアマネージャーによる切れ目のない継続的な情報提供です。

取り組んだ結果、介護保険について一度だけの説明では理解するのが難しい事と、改めて説明の機会が少ない事が分かりました。しかし、介護保険のパンフレットは理解の手助けになる事も分かりました。

今後の取り組みは、本人やご家族が必要としている情報が得やすい様に多職種連携を更に深めていきます。その方法の一つとして、パンフレットを継続して活用していきます。また介護保険更新時には、介護保険等制度全般の説明を行なっていきます。



[チームメンバー]

鶴田 好孝	杉山 雄太
古屋 俊樹	伊藤 由美香
津秋 瑞江	中村 俊正
岩波 充宏	赤岡 慎之
茄子川 修	大原 美里
三枝 むつみ	福島 しのぶ
天野 美歩	坂本 照子
内田 二美	上野 治美

報告会 2グループ

チームイメージ 『レインボー』

テーマ『利用者の情報を共有する方法』

【望むこと・あるべき姿】

- 継続的な情報交換。⇒入院中にも経過を伝える。⇒利用者の入院中の様子も少しは知りたい。
- 理解できる情報を発信する。⇒専門用語は分かりやすい言葉に変える。
- 受診時等に薬が変わったことを、デイにも知らせてもらえるとありがたい。
- 現在の疾患の経過・様子をケアしている人達が、把握できる方法を考える。
- 連絡ノートが欲しい。
- 家族間の情報(意向)のズレに注意する。
- プライバシーにも配慮する。⇒本人・家族に同意を得て提供する。⇒情報を伝える。目的を説明する。
- 情報を埋もれさせない工夫をする。⇒簡潔なタイトルを付ける。
【例:「いつもの報告」「教えて下さい」「注意して下さい」】
- 利用者さんの負担を減らす(同じことをあちこちで聞かない)。⇒利用者を取り巻く情報・家族関係等を共有したい。
- ケアマネとして、欲しい情報は何か考察・分析する。
- ケアマネがするべきこと。⇒地域と医療機関を結ぶ。受診に付き添い、医師の説明を聞いて関係者に伝える。

【共有すべきもの】

- 服薬状況
- 栄養状況(食事形態)
- 退院時の情報提供
- 経済状況
- 予後
- ADL・IADL
- 家族との関係
- 本人・家族の意向
- 家族の介護状況が変化した時の対応方法
- 利用サービス
- 本人の趣味・特技(生き甲斐)
- 患者の主訴を理解した上で私達に行なってほしい事
- 情報提供した方々の主訴
- 退院後の在宅生活に於ける家族の不安



【まとめ】

市民が住み慣れた地域で安心安全に生き生きと暮らすためには、「支援間の情報共有」が必要だと話し合いました。具体的にどんな情報が必要になるのか把握するため、各々の職場でインタビューにより調査しました。

情報が集まるとともに、課題も浮かび上がってきました。例えば、プライバシーの問題、守秘義務、入院中の情報のやり取りなど様々です。

こうした調査の結果から、今後の取り組みとして『情報共有シート』の作成を目指していく予定です。

[チームメンバー]

武井 尚子	関谷 宏美
小澤 洋見	稲村 さゆり
内藤 由美子	井口 美江子
古屋 千賀	磯野 賢
原 和彦	三木 みちよ
柴田 祐子	中村 哲也
弦間 ひろみ	植原 大樹
服部 国江	奥山 史帆

報告会 3グループ

チーム名 『SUN グループ』

テーマ『SUN づくり運動 ～地域づくり、健康づくり、生きがいづくり～』

※平成 28 年 8 月 19 日(金)、牧丘YLO会館「**牧丘民生委員さんの定例会**」に押し掛けました！！

【当日ドキュメント】

事前打ち合わせ	『山梨市の在宅医療と介護を語る会』の成功を目指して、せまいロビーでコソコソと打ち合わせ。
20:00 スタート	民生委員の会議で紹介してもらいスタート。メンバー1人1人の地域での仕事っぷりを紹介。
佐野医師の講和	テーマ/運動器『骨と筋肉』 たくさん質問が出ました。 ・佐野先生、緊張してました。
理学療法士 平賀氏の講和	テーマ/いきいき『百歳体操』 全国と山梨の状況を紹介。 ・ある驚きの声 「本当けえ、96歳で杖なしで歩けるだけ！」 ・100歳体操の資料を見て 「やれと言われても、毎週やるはエライら…」
民生委員さん 30名参加	皆さん、真剣に講和を聴いている様子。 いつもは寝ている人も今日は起きてる！
民生委員さんから 質問を受ける	会場内から、「も、もっと時間を！」の音が…。
おわりのあいさつ	牧丘民生委員会長より 「100歳体操、どっかでやってくれんかなあ。ウチのおばあも元気にならんか？」
アンケート (その一部を紹介)	◆地域で体操教室を開くと言っても、本人のやろうとする気持ちが継続につながる。 ◆いくつになっても、体力を保つために自分で努力する気持ちになりました。 ◆佐野先生のお話、大変勉強になりました。骨粗しょう症予防、早速実践し、また周りの人達にも伝えていきたいと思えます。

【まとめ】

市民が安心して住み慣れた自宅で生き生きと生活することを支えるために必要なことの一つは、「健康づくり」「地域づくり」「生きがいづくり」だと話し合いました。それを実現するために取り組んだことは、「民生委員さんの会議で自分達のことも知ってもらいながら、健康づくりにつながる話を医師から、地域づくりにつながる話を理学療法士から紹介し、意見交換する機会を持った」ことです。多職種で連携し質問を受けることで、心強さを感じました。今後も多職種が顔の見える関係となり、つながっておくことで、市民の疑問や不安に答えていけるように、声を掛けあっていきたいと思えます。



[チームメンバー]

佐野 三千広	前田 哲
加々美 理恵	内田 真弓
駒井 一二美	田辺 和明
秋山 栄人	平賀 満
藤原 健	土屋 公彦
土橋 史哉	竹内 美和
土屋 真理子	武井 正文

報告会 4グループ

テーマ『生き生きと生活するための情報共有 ～【生き生き発見ノート】の記入をやる～』
キャッチコピー「あなたを応援するために、あなたをもっと知りたいの」

【生き生き発見ノート】

●問題点
・ヘルパーやデイの職員に書いてもらうのに時間が取られて大変だった。
・書かなければならないというスタッフの負担がある。
・ご本人やご家族を眼前に、良いことであってもなかなか上手く書けない。
・本人の見るノートには書けないことも多い。
・ノートを置くことに抵抗があると、本当に伝えたいことが書けない。
●課題
・好きを話題にして、どのように生かすか。 →【頑張る力にしたい、その人らしい目標に結びつける、共通の話題づくり等々】
・会ったことのない人がいると、情報の共有は難しい(できにくい)。
・個人情報保護。
・個人個人に適した情報共有手段(ノートの記入を嫌がる人もいる)。 →本人の理解を得る工夫が必要。
●ノートで広がる応援の輪
・ご本人の目標を聞き出すことができた。
・普段聞けない話が出た。
・自分からなかなか話してくれない人が話してくれる。話題が探せた。
・その人が昔好きだったこと(釣り、カメラ、車など)が分かった。
・自分の知らない面が見えた。
・ちょっとした事でも意欲につながる言葉になった。
・本人が、自分を応援してくれる人や見守ってくれている人がいることを感じてくれた。
・関わるスタッフが、その人の頑張っているところ、出来ているところ、ポジティブな視点を持つようになったこと。

【まとめ】

市民が安心して住み慣れた自宅で生き生きと生活することを支えるために必要なことのひとつは、「その人をもっとよく知る事」と話し合いました。

それを実現させるために取り組んだことは、『生き生き発見ノート』の作成です。

とかく「できないこと」「不自由なこと」に目を向けがちですが、ノートには「その人のできる事、好きなこと、楽しいと思うこと」を日々の関わりの中で気付いて記入するようにしました。

今後は情報交換のツールを検討し、知った情報をどのように生かすかを考え、応援の輪を地域の人にまで広げていけるようにしていけたらと考えます。



[チームメンバー]

寺本 英樹	松土 はつみ
流石 麻由	坂野 さおり
齊藤 光恵	楠 ゆかり
熊王 智美	岡 由利子
雨宮 克枝	石井 由美子
坂井 さゆり	上原 香緒里
鈴木 有紀子	雨宮 治貴

報告会 5グループ

チーム名 『チームグレープ』

テーマ/「ほっとスペース」その先へ…」

○来てもらうために…、まず知ってもらいたい！

○多職種力を集結！！

【当日の様子を写真集に】



【来てくれた人の声】

- 放課後老人クラブを作ってもらいたい。
- 世間話がしたい！
- 介護の苦勞をわかってもらえて、また頑張れる気がした。
- 自分だけじゃないと思えて力が湧いてきた。

【見えてきたもの】

- 広報が大事。
- ほっとスペースの「売り」を作る。
- 次へのバトンタッチ。



【まとめ】

「市民が安心して住み慣れた自宅で生き生きと生活することをささえるには何が必要か」

多職種でアイデアを出し合い、8月20日の『ほっとスペース』の場所を借りて、少し違った取り組みをしてみました。このイベントを通じて、来てくれた人の声（悩み、こうして欲しい）が聞けました。また『ほっとスペース』の在り方や課題も見えてきました。このイベントが、次のバトンタッチになればと思っています。



[チームメンバー]

小澤 幸子	小林 早苗
立川 隆	精進 直幸
内田 まゆみ	横田 恵子
長沼 和子	土橋 朋弘
横瀬 美紀	水上 志保
橋本 晶子	斉藤 徳仁
辻 美代子	

報告会 6グループ

テーマ「本人の思いに寄り添いながら連携する」

【わたしの思いノート】



【様々な思い】

- 本当は家にいたいですが…
 - ・入所中(ひとりで生活できない)
 - ・本人と家族の思いが違う。
 - ・健康面に不安あり。
- 家にいたい！
 - ・最後までかかわって欲しい。
 - ・本人のために家族がんばる。
 - ・何としても、何としても、家で生活したい。
- 家族のために家を守りたい
 - ・この家を守りたい。だけど…。
- やりたい事を続けたい
 - ・食べ続けたい。
 - ・ペットの世話を続けたい。
 - ・人と話したい。
 - ・元気アップ教室に通い続けたい。

【まとめ】

市民が安心して住み慣れた自宅で生き生きと生活することを支援するために必要なことは、「本人の思いに寄り添いながら連携する」事だと話し合いました。それを実現するために取り組んだ事は、「本人の思いに触れた内容を紙ベースで書き記すノートを作る」ことです。

【様々な思い】

- ①家にいたい
- ②家族のために家を守りたい
- ③やりたいことは続けたい
- ④本当は家にいたいですが…

今後の取り組みは、あきらめないで情報発信し、本人・家族・専門職が連携しつなげていくことです。

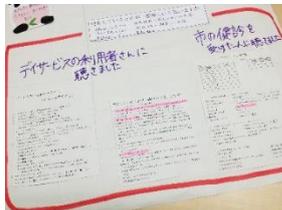


[チームメンバー]

若杉 好文	秋山 梅花
西岡 淳子	深松 幸子
渡辺 正道	林 薫子
荻原 恵子	大熊 信哉
古屋 正彦	中澤 里美
小笠原 浩美	日原 寿美子
前田 英美	雨宮 邦枝

その人の想いを聴きとりました ~ 互いの心が通じたよ!

【何をしているときが一番楽しいと思いますか】



誰かがいてくれること … 健康維持～病気や死からの回避
何かに夢中になれること … 現状の不安や雑念から回避
家族の中にいること … 幸福の根本

【デイサービスの利用者さんに聴きました】

●想いを聴いてみたら、このような意見でした! (抜粋)

- ・家族(特に息子)との会話が少ない。もっと話したい。
- ・家族と楽しく過ごせている。このまま続けたい。
- ・介護保険制度は良くなっていくのか不安。
- ・デイの中で、もう少し体を動かす時間がほしい。
- ・家の中でも何かやることがほしい。
- ・転ばないようにしていきたい。

●何をしているときが一番楽しいと思いますか(抜粋)

- ・一人で家にいるとノイローゼになっちゃう!
みんなが来てくれて話をしているときが一番いい…
(一番大好きな人は病院の栄養士さん)
- ・猫と遊んでいるときです。家には猫が3匹いるんですよ。
かわいいね。
- ・歌を歌っているときですよ。
女房の顔を見ているとき…それもありますね。
- ・一ぺい飲んでるときかな…
- ・孫にお小遣いをあげるとき。そのときいい顔を見せてくれるとき。(もらうほうも、やるほうも嬉しい)

【市の検診を受けた人に聴きました】

①生活の中で一番の楽しみ(行動)は何ですか。(抜粋)

- ・妻と2人有的时候き
- ・湯に行くこと
- ・多くの人との談話
- ・農作業

②それをするために心掛けていることは何ですか。(抜粋)

- ・毎日30分くらい歩いている。
- ・健康に心掛けている。
- ・特になし

③今後やりたいことは何ですか。(抜粋)

- ・旅行に行くこと
- ・健康寿命を延ばしたい
- ・特になし

【まとめ】

市民が安心して住み慣れた自宅で生き生きと生活することを支えるために必要なことの一つは、「高齢者が今日用がある(教養)・今日行くことがある(教育)」ことだと話し合いました。

それを実現させるために取り組んだことは、「その人に楽しみや生きがいを語ってもらう」ことです。

語ってもらった結果、「美味しく食べられること」「デイサービスで作業をすること」「人のために何かをしたいと思っていること」を知ることができました。

今後の取り組みは、その人の楽しみや生きがいなど『想い』を語ってもらうことで、私達支援者が想いを知ったうえでそれぞれの役割を發揮していく予定です。



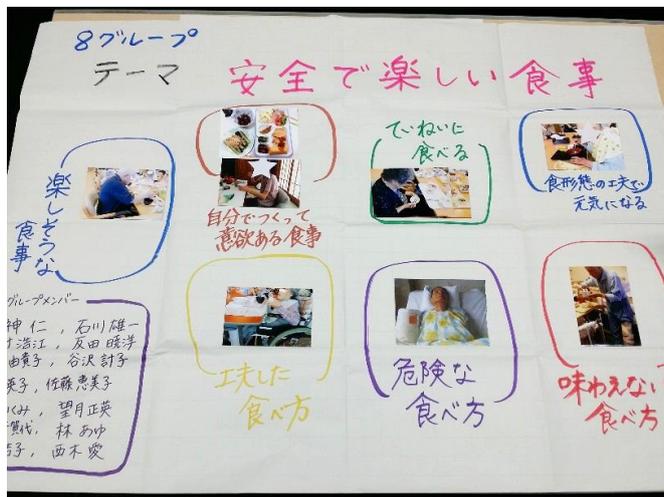
[チームメンバー]

天野 達也	佐藤 富明
鷹左右 恵美	五味 真紀
小林 孝臣	佐野 直美
小林 さえ子	古屋 真里子
古宮 玲子	柳原 めぐみ
古屋 美代子	渡辺 由香

報告会 8グループ

テーマ「安全で楽しい食事」

【色々な食事の現状】



【まとめ】

市民が安心して住み慣れた自宅で生き生きと生活することを支えるために必要なことは、**安全で楽しい食事**だと話し合いました。それを実現させるために取り組んだことは、**食事の現状を知る（姿勢）**です。

取り組んだ結果、体の姿勢と心の姿勢が重要だということが分かりました。工夫・丁寧・食形態を支えて楽しそうな食事を支援することが大事です。

危険な食べ方、味わえない食べ方がないように、私達の知恵で工夫していきましょう。

（わかったこと）

- 楽しそうな食事
- 自分でつくって意欲ある食事
- ていねいに食べる
- 食形態の工夫で元気になる
- 工夫した食べ方
- 危険な食べ方
- 味わえない食べ方



【チームメンバー】

三神 仁	佐藤 恵美子
石川 雄一	大島 いくみ
中村 浩江	望月 正英
反田 暁洋	福永 千賀代
中島 由貴子	林 あゆ
谷沢 計子	武藤 浩子
鷹野 英子	西木 愛

【設問1】今日の報告会について、ご感想やご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

- それぞれのグループが、大切なテーマをもって実践したことが聞いて良かった。
- 各グループの熱い思いが伝わる。
- 全グループの取り組み内容を具体的に知ることができ、とても有意義な会に参加していると実感しました。
- 他のグループの考えは大変興味深い。
- 色々な職種の方の意見や考えが聞いて、良い機会になりました。
- どのグループも色々な課題に取り組んでいたのも、とても参考になりました。
- 色々な思いが聞けました。
- 各チームの集大成を拝見しました。最後のまとめも素晴らしかったのですが、これまでの作り上げる過程が最も大切な体験だったと思います。特に同じグループメンバーとは楽しく学べました。今後に活かしたいと思います。介護保険課の皆様、古屋先生、ありがとうございました。
- 普段、他職種の方と交流する機会が少なく、色々な意見が聞いて新鮮であり参考になりました。
- 今回の勉強会では各自が思い立ったことを書く事から始まり、方向付けにまとまっていきまいた。毎日何となく思っている事でも、まとめていくと問題解決になっていくのだと思いました。
- 多様な視点で在宅生活を守ることが出来ることや、生き生きと生活のできる環境作りが出来たらと思います。
- 内容が充実していました。
- とても分かりやすい発表でした。
- 意見交換を個々で行なえる時間もあるといいのではないかと思います。
- 各グループの方が、それぞれのテーマに取り組んだ結果を見せて頂き、それぞれのグループの考えを知ることができ、良かったです。
- 今後の仕事に活かしていけると実感しました。多職種の方の話が沢山聞いて良かったです。
- 様々なグループの話を聞き、取り組みをしていく過程が良かったと思う。
- 顔の見える関係づくりがとても大切だと思いました。
- 様々なテーマでとても良かったです。「何か私にもできる事があるのかな」と思っていたのですが、今回参加して見つけていけそうだと感じました。これからも参加したいと思います。
- 何にしても、ひと手間加えることで、上手いくように感じた。
- どうも市の方にうまく使われたという感が拭えないのです。最初の入りにて、チラシで『ボランティアで在宅医療・介護をどうするか実践する会』とかにしてあれば、それなりの覚悟で臨んだかもしれません。こちら「自分が地域を何とかしよう」との思いが小さいのも問題なのでしょうか。ちょっとした言葉遣い、話の展開の仕方だと思うのですが。
- 各グループから色々取り組みを報告いただいて良かったです。皆がそれぞれ自信を持ち活動されていたのを感じました。
- 「顔の見える関係づくり」まさにここにあったと思いました。一人では大変なことも皆でやればできるということも分かりました。
- 色々勉強になりました。色々な職種の方がプロフェッショナルな考えで素晴らしい意見や考えを発表してくださり、参考になりました。
- 継続することが大事と考えます。
- それぞれのチームがとても良いテーマを掲げ、それを基に素晴らしい取り組みをされたと思う。今後も継続して色々な課題に取り組み、在宅医療と介護をより良いものにしていくことが出来たらいいな、と思う。
- グループ毎の見方が違うのが興味深かったです。発表時の写真等を大きくして写し出すことができれば、もっと良かったかと思います。
- 色々なグループの取り組みを知ることができました。
- 全8グループ、それぞれが同じベクトルに向かっていく継続性が今後にも必要。ドッキングして更に良い企画が出来ればと思う。

- 皆さんから熱い話が聞けて刺激になりました。みんなで考えれば、こんなにも沢山の意見が出ることに改めて感激しました。1つでも今後につながれたらと思います。
- 面白かったです。
- これだけ大勢の多職種の方々と意見交換ができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。
- とても有意義な時間を過ごさせていただきました。仕事で会っていても、なかなか話ができない事が多いので、このような会が定期的に有っても良いと思います。
- 各グループがそれぞれのテーマで取り組んできましたが、本日の取り組みの発表を聞き、これで終わりではなく継続していきたいと思いました。
- お疲れ様でした。色々な方と1つのテーマで話ができ、大変勉強になりました。
- それぞれの班で、私達の班では思い付かなかったような視点の意見や取り組みが発表されて、とても参考になり勉強になった。これらの取り組みを一人一人が行なっていくことで、高齢者の方々により良い暮らしを提供できると思った。
- 普段関わることのない職種や他の病院の方とお話させていただき、とても有意義な時間が作れました。

【設問2】これまでの『山梨市の在宅医療と介護を語る会』の取り組みを通して、以下の内容にお答えください。

質問内容	①はい	②いいえ	無回答
(1)この取り組みをおこなって、有意義だと思いましたか？	56名 (100%)	0名 (0%)	0名 (0%)
(2)この取り組みから、医療と介護の連携に関するヒントを得たと思いますか？	56名 (100%)	0名 (0%)	0名 (0%)
(3)今後、継続して実践していきたい内容がありますか？	41名 (73%)	1名 (2%)	14名 (25%)

上記質問（3）の具体的内容についての回答

- ◆連携方法の内容の検討。
- ◆支援者として、市民として、もっと地域を知る必要がある。知ってもらえるよう発言する。
- ◆その人の思いをどう聞いたらいいか。
- ◆各職種の仕事内容や多職種連携の核となっているケアマネの仕事を理解すること。また、連絡経路の確認、介護保険を学び理解すること。
- ◆第6グループのノートのとめ方を詰めたい。(誰が記載して、誰が保管するか…)
- ◆情報提供を続けていく。
- ◆今回話し合った『連携ノート』について、今後も話し合っていきたいと思います。
- ◆在宅医療を支えていくためには、在宅で生活している人(または介護者)がどのような支援を必要としているのか、現場でないと分からないため、多職種の人達が地域に出っていくことは大切だと思いました。
- ◆食については、継続して研修や現状の意見交換ができると嬉しいです。
- ◆多職種連携、情報交換、地域での実践。
- ◆色々な職種の行なっていることを、もう少し知ってほしい。
- ◆SUNづくり運動(リーダーづくり)
- ◆人の想いを聴くことを続けたい。
- ◆防災に対して(特に災害弱者)の取り組みを。
- ◆ほっとスペースの活用をどのように家族に伝えようか、正直迷っていた。人も集まらないし、上手く悩みを伝えられない家族にとって余計に負担になってしまうような気がした。今回のような取り組みはとてもありがたく、行きやすい環境になったと感じた。
- ◆認知症カフェの広報活動は是非継続を。
- ◆まだまだ勉強不足なので、なかなか実践に結び付きませんが、続けていけたらと思います。

- ◆他職種がこのような場で、また“山梨市”と規模の小さな地域で開けたことが、顔の見える関係を築けたように思えます。
- ◆ほっとスペースをより充実させたい、ということです。
- ◆とかく出来ないこと、困っていること等ばかり聞いてしまいますが、敢えてその方の好きなこと、得意なことを中心に聞く機会も大事だと感じました。今後実践したいです。
- ◆多職種連携の大切さを改めて実感しました。
- ◆共通ノートの目的や内容等を検討していくと、有意義なものが出来上がるのではないかと考えます。災害時に活用したり、健康増進に活用したり、施設・在宅との連携に使用したりできるものであれば、山梨市から発信できるのではないかと思う。
- ◆情報共有の方法を考えていく。多くの人の持つ情報をどのように集めて管理していくか、考えて、提案していく。
- ◆要介護者や家族の想いを聴くことにより、多職種が連携して出来ることにつなげていけることを考えたい。
- ◆職の理解と連携ができるように。お互いに話し合いを持つ。
- ◆「安全な食事」の問い合わせができる窓口が出来たらいいと思います。情報の共有する場所をどうするかが課題です。
- ◆食について。
- ◆第4グループの「生き生きノート」、第3グループの「民生委員との協力」。
- ◆まずは想いを聴くこと。明日からできる。
- ◆男の料理教室、おじいちゃんおばあちゃんありがとうノート、葬儀業者と高齢者を看ている人との交流会（この世とあの世の橋渡し）。
- ◆地域の老人の話に耳を傾ける。
- ◆これからの在宅生活を支えていくためには、介護支援者や医療関係者だけでは成り立たないと考えます。民生委員との関わりを持つ機会に参加してみたい。
- ◆ノートの作成。「ほっとスペース」＋「教育・教養」を合同で。
- ◆一人一人の思いを聞いていく。
- ◆想いのノートの作成。

【設問3】最後に、その他ご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。

- 平日の夜、2時間半は少し疲れましたが、充実した時間ではありました。
- ほっとスペースや情報共有ノートは興味があります。
- 今回のように、多職種が大勢集まる機会ははともありがたいと思いました。このような集いを繰り返し、顔の見える関係を深めていける機会を繰り返していければありがたいと思いました。
- 今回はありがとうございました。
- 3回目、都合がつかず欠席したことをとても後悔しています。
- 体操系の研修や講演会があると思います。
- 「在宅医療と介護を語る会」この言葉から在宅医療と介護の連携についての研修だと思っていました。4回の研修を通して、様々な職種の方と出会うことができ、今後の連携に活かしていきたいと思います。
- 実践した取り組みが自己満足で終わらないようにする必要がある。実利が地域に還元できるよう行なっていくべき。
- 平日、夜遅くまでの研修は…。
- やはり、全体での意見交換会では意見が出しにくい。グループワークで行なって、グループ毎で発表したら良いと思いました。
- 貴重な機会、ありがとうございます。
- 地域づくりは医療職・介護職だけではなく、住民主体となって動く仕組みが大事かと思えます。その住民の中に、医療職も介護職も市職員も含まれているという感じが良いかと思えます。
- ありがとうございました。
- 独居老人や老々介護の人々は、サークルや講演会等に参加できないことが多い。また、行政もそのように困っている人を見逃してしまうことが多いと思われる。一番困っている人々の在宅医療と介護をどのようにしてあげたら良いか、まだまだ問題が多いと思われる。

- 介護も一人毎のテラーメイドになると感じました。手間は掛かりますが、満足度は上がると思います。
- もう少しお互いに会話する時間を作ってほしかったです。自分のグループ以外の方でも知り合いたい・話をしたい方がいました。せっかく、これだけの方が集まったのに、知り合う機会が持てなかったのは残念です。他職種の交流する会をお願いしたいです。
- 通所の施設にいます。その方の行動・性格等、困ってしまう時も多々あります。その時に気軽に相談できる専門職の方とつながりが出来たらありがたいです。特に日下部臨記念病院など、精神面でのサポート方法等が学べたり相談できたりしたら良いなと思っています。初老（50～60歳）の方を対象とした、将来について考える講座があると良いと思います。
- 今後は地域の方にも声掛けして、みんなで語る会があっても良いかもと思う。
- 「レコーディングノート」や「想いのノート」の作成を継続していければと思います。

山梨市の在宅医療と介護を語る会報告会 アンケート (来観者用)

【質問項目】

- ① あなたの職種を教えてください。
- ② 今日の報告会について、ご感想やご意見がありましたら、ご自由にお書きください。
- ③ その他ご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。

①	看護師
②	想像していた以上に、たくさんの職種、たくさん的人数の方が参加されていることにびっくりしました。これだけの方が、山梨市の在宅医療と介護のために1つ以上のアクションをしたということは、それだけで凄いことではないかと思えます。各取り組みについても勉強になりました。ありがとうございました。
③	記入なし

①	看護師
②	記入なし
③	様々な専門職種の方がタイムリーなテーマで話し合う場があることは素晴らしいと思えました。私も自分の地域で、このような集まれる仕掛けを少しずつつづけていきたいと思います。ありがとうございました。

①	看護師
②	住んでいる地域で、多職種での勉強会や講演会を実施していますが、実践に結び付けるところまでは行なっておらず、本日の発表を聞きまして、実際に実践するところまでできて、とても素晴らしいと思えます。地域に戻った時に、山梨市の取り組みを紹介、参考にさせていただこうと思えました。
③	写真があると、とても興味を持てるし、わかりやすいので良かったです。

①	保健師
②	『サポートやまなし』の設置は、山梨市の施策の大成功例として、大変羨ましく思います。ドクターが牽引して下さるのは本当に心強いです。
③	ありがとうございました。

①	介護職
②	現場からの意見が多く反映されていて、実行可能な取り組みばかりで、自身も行動に移していきたいと思えました。
③	今後も職種を限定しない交流、意見交換の場が続くと、医療と介護の連携が更に深まると思います。

①	介護支援専門員
②	それぞれのグループが忙しい業務の中、いろいろたくさん調べたり、研究したりと頑張っていることに感動しました。勉強になりました。ありがとうございました。
③	記入なし

①	歯科医師
②	<p>本日は皆様のお話、大変参考になりました。</p> <p>山梨市での在宅歯科医療を3年程携わらせていただいています。衛生士とともに月2回程、2名の患者様を診察させていただいています。うち1人の方は、私のところで20年前に作製した義歯を大切に使用させていただいており、非常にコミュニケーションを楽しくさせていただいています。2名の家族の方は、遠方にいらっしゃるったり、また家族がいない方ですが、山梨市の社会福祉協議会の方とサポートケアしています。今は元気に食事をされていますが、今後も丁寧にサポートしていきたいと思います。</p>
③	<p>今は勉強中です。息子も歯科医師です。2人でサポートしていきたいと思います。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>

①	保健師
②	<p>在宅医療と介護を支える関係者が自主的に参加されていると伺い、とても驚きました。熱意のある方達が集うことで顔が見えて、今後更に横のつながりが強化されると思います。</p> <p>また、グループでの取り組みの多くが、対象者の想いを聴こうという内容だったと感じます。「対象者の想いをしっかり聴くこと」、現場ではなかなか難しいことの現れかな、とも感じました。多職種でこのことに気付くことで、今後もっと良いケアにつながると思います。ケアの質の向上も自然と図れて、とても素敵な取り組みだと思いました。</p>
③	<p>医療と介護をつなぐ情報シートは在るといいと思っています。一市で作るより広域で作れると、利用しやすさが増すのではないかと考えています。本市もこれに取り組みたいと考えていますので、今後とも情報共有しながら一緒に作れるようお願いいたします。本日は学ばせていただき、ありがとうございました。</p>

①	介護職
②	<p>多職種の方々が自身の仕事外で様々な取り組みを実践された発表を聞くことができ、素晴らしいと感じました。制度だけでは中々行き届かない面も、こうした会で多職種の方が交流を図ることで、本来の目的へ一歩でも近づくのではないかと感じました。</p>
③	記入なし

①	介護支援専門員
②	<p>在宅医療と介護について、各グループがそれぞれ独自の視点での作戦を立てて、それを発表している様子を拝見して、どのグループも工夫を凝らしていて、とても感心させられました。ありがとうございました。</p>
③	<p>様々な職種の方々が、一つのテーマに沿って議論している姿を拝見して、横のつながりが持てる場があるというのは、とても素晴らしいことだと実感しました。</p>

①	市役所職員
②	<p>各グループのメンバー間に“顔の見える関係”ができていたと思いました。多職種のメンバーが一つの作業を共同で行なったことで、望ましい関係ができたのだと思います。この時点で大成功を成し遂げられたと思います。ここまでのコーディネートをされた職員の皆様に、「ご苦労様」と言いたいと思います。</p>
③	<p>医師の参加が大勢見受けられ、この地域の在宅医療に対する思いが感じられました。男性の参加が多いことも特徴かと思えます。矢崎様、見学の機会をいただき、ありがとうございました。</p>

山梨市在宅医療と介護を語る会・参加者名簿 (敬称略)

(斜線・下線) グループ内ファシリテーター

【1グループ】

No.	氏名	職種	所属
1	鶴田 好孝	医師	つつじクリニック
2	古屋 俊樹	医療ソーシャルワーカー	牧丘病院
3	津秋 瑞江	介護支援専門員	恵信山梨南サポーターセンター
4	岩波 充宏	介護支援専門員	ハートフル塩山 居宅介護支援センター
5	茄子川 修	介護支援専門員	笛吹荘居宅介護支援事業所
6	三枝 むつみ	介護支援専門員	リアン
7	天野 美歩	介護支援専門員	サテライト桃源荘居宅介護支援センター
8	内田 二美	看護師	牧丘病院
9	杉山 雄太	作業療法士	峡東地域リハビリテーション広域支援センター
10	伊藤 由美香	歯科衛生士	山梨県歯科衛生士会
11	中村 俊正	生活相談員	恵信ロジェ山梨 (デイサービス)
12	赤岡 禎之	薬剤師・鍼灸師	山梨県薬剤師会・山梨県鍼灸師会
13	大原 美里	県職員(保健師)	峡東保健福祉事務所 長寿介護課
14	<u>福島 しのぶ</u>	<u>市職員(保健師)</u>	<u>市介護保険課・地域包括支援担当</u>
15	坂本 照子	市職員(看護師)	市介護保険課・地域包括支援担当
16	上野 治美	市職員(栄養士)	市子育て支援課・保育児童担当

【2グループ】

No.	氏名	職種	所属
1	武井 尚子	医師	武井医院
2	小澤 洋見	介護支援専門員	あぐる居宅介護支援事業所
3	内藤 由美子	介護支援専門員	恵信山梨南サポーターセンター
4	古屋 千智	介護支援専門員	ハートフル塩山 居宅介護支援センター
5	原 和彦	介護支援専門員	笛吹荘居宅介護支援事業所
6	柴田 祐子	介護職	デイサービス あさひ
7	弦間 ひろみ	看護師	牧丘病院
8	服部 国江	看護師	日下部記念病院
9	関谷 宏美	作業療法士	峡東地域リハビリテーション広域支援センター
10	稲村 さゆり	歯科衛生士	山梨県歯科衛生士会
11	井口 美江子	生活相談員	山梨市デイサービスセンター
12	磯野 賢	理学療法士	甲州ケアホーム 在宅支援第1部
13	三木 みちよ	県職員(事務職)	峡東保健福祉事務所 長寿介護課長
14	<u>中村 哲也</u>	<u>市職員(社会福祉士)</u>	<u>市介護保険課・地域包括支援担当</u>
15	植原 大樹	市職員(事務職)	市介護保険課・地域包括支援担当

【3グループ】

No.	氏名	職種	所属
1	佐野 三千広	医師	通所リハビリテーション いぶき
2	加々美 理恵	介護支援専門員	石和げんき園指定居宅介護支援事業所
3	駒井 一二美	介護支援専門員	こま居宅介護支援事業所
4	秋山 栄人	介護支援専門員	笛吹荘居宅介護支援事業所
5	藤原 健	介護支援専門員	笛吹荘居宅介護支援事業所
6	土橋 史哉	介護職	山梨市デイサービスセンター
7	土屋 真理子	看護師	牧丘病院
8	前田 哲	作業療法士	甲州リハビリテーション病院 訪問リハビリテーション
9	内田 真弓	歯科衛生士	山梨県歯科衛生士会
10	田辺 和明	相談員	恵信サテライトロジェ（相談室）
11	平賀 満	理学療法士	甲州リハビリテーション病院附属一宮診療所 通所リハビリテーション
12	土屋 公彦	市職員(事務職)	市健康増進課・健康企画担当
13	竹内 美和	市職員(保健師)	市介護保険課・地域包括支援担当
14	武井 正文	市職員(事務職)	市介護保険課・予防推進担当

【4グループ】

No.	氏名	職種	所属
1	寺本 英樹	医師	寺本医院
2	流石 麻由	歯科医師	藤原歯科医院
3	齊藤 光恵	介護支援専門員	一宮居宅介護支援事業所
4	熊王 智美	介護支援専門員	サテライト桃源荘居宅介護支援センター
5	雨宮 克枝	介護支援専門員	笛吹荘居宅介護支援事業所
6	坂井 さゆり	介護支援専門員	やさしい手 山梨事業所
7	鈴木 有紀子	看護師	加納岩総合病院（病棟在宅訪問）
8	松土 はつみ	看護師	牧丘病院
9	坂野 さおり	歯科衛生士	山梨県歯科衛生士会
10	楠 ゆかり	相談員	恵信サテライトロジェ（デイサービス）
11	岡 由利子	理学療法士	牧丘病院
12	石井 由美子	市職員(社会福祉士)	市介護保険課・地域包括支援担当
13	上原 香緒里	市職員(事務職)	市介護保険課・予防推進担当
14	雨宮 治貴	市職員(事務職)	市介護保険課・介護保険担当

【5グループ】

No.	氏名	職種	所属
1	小澤 幸子	医師	牧丘病院
2	二宮 美子	介護支援専門員	一宮居宅介護支援事業所
3	立川 隆	介護支援専門員	サテライト桃源荘居宅介護支援センター
4	内田 まゆみ	介護支援専門員	笛吹荘居宅介護支援事業所
5	長沼 和子	介護支援専門員	やさしい手 山梨事業所
6	横瀬 美紀	看護師	武井医院
7	橋本 晶子	看護師	山梨厚生病院（退院調整支援室）
8	辻 美代子	歯科衛生士	山梨県歯科衛生士会
9	中村 一美	訪問介護	訪問介護サービス リアン
10	小林 早苗	理学療法士	牧丘病院
11	精進 直幸	医療ソーシャルワーカー	日下部記念病院
12	横田 恵子	県職員(保健師)	峡東保健福祉事務所次長
13	土橋 朋弘	市職員(事務職)	市健康増進課・健康企画担当
14	水上 志保	市職員(社会福祉士)	市介護保険課・地域包括支援担当
15	斉藤 徳仁	市職員(事務職)	市介護保険課・予防推進担当

【6グループ】

No.	氏名	職種	所属
1	若杉 好文	歯科医師	山梨県歯科医師会
2	西岡 淳子	介護支援専門員	介護センター パートナー
3	渡辺 正道	介護支援専門員	サテライト桃源荘居宅介護支援センター
4	荻原 恵子	介護支援専門員	笛吹荘居宅介護支援事業所
5	古屋 正彦	介護支援専門員	山梨介護福祉社
6	小笠原 浩美	看護師	デイサービスセンターきぼう 山梨事業所
7	前田 英美	管理栄養士	武井医院
8	秋山 梅花	歯科衛生士	山梨県歯科衛生士会
9	深松 幸子	歯科衛生士	山梨県歯科衛生士会
10	林 薫子	保健師	つつじクリニック
11	大熊 信哉	薬剤師	富士薬局
12	中澤 里美	市職員(保健師)	市健康増進課・健康支援担当
13	日原 寿美子	市職員(保健師)	市介護保険課・予防推進担当
14	雨宮 邦枝	市職員(保健師)	市三富支所・住民生活担当

【7グループ】

No.	氏名	職種	所属
1	天野 達也	医師	石和温泉病院
2	鷹左右 恵美	介護支援専門員	居宅介護支援事業所 リアン
3	小林 孝臣	介護支援専門員	サンコート居宅介護支援事業所
4	小林 さえ子	介護支援専門員	笛吹荘居宅介護支援事業所
5	古宮 玲子	介護支援専門員	山梨市社会福祉協議会指定居宅介護支援事業所
6	古屋 美代子	看護師	ハートフル塩山 デイサービスセンター
7	佐藤 富明	看護師	日下部記念病院
8	五味 真紀	サービス提供責任者	やさしい手 山梨事業所
9	雨宮 仁美	歯科衛生士	山梨県歯科衛生士会
10	佐野 直美	事務職	通所リハビリテーション いぶき
11	河野 真理	薬剤師	富士薬局
12	柳原 めぐみ	市職員(保健師)	市健康増進課・健康支援担当
13	古屋 真里子	市職員(事務職)	市介護保険課・介護保険担当
14	渡辺 由香	市職員(保健師)	市健康増進課・健康支援担当

【8グループ】

No.	氏名	職種	所属
1	三神 仁	歯科医師	三神歯科医院
2	石川 雄一	医療ソーシャルワーカー	加納岩総合病院 (医療相談室)
3	中村 浩江	介護支援専門員	恵信山梨落合サポーターセンター
4	反田 暁洋	介護支援専門員	松蔭居宅介護支援事業所
5	中島 由貴子	介護支援専門員	笛吹荘居宅介護支援事業所
6	谷沢 計子	介護支援専門員	やまぶき居宅介護支援事業所
7	鷹野 英子	看護師	東山梨訪問看護ステーション
8	佐藤 恵美子	サービス提供責任者	やさしい手 山梨事業所
9	大畠 いくみ	生活相談員	恵信ロジェ山梨 (ショートステイ)
10	望月 正英	薬剤師	山梨厚生病院
11	福永 千賀代	栄養士	
12	林 あゆ	市職員(保健師)	市健康増進課・健康企画担当(国保担当)
13	武藤 浩子	市職員(看護師)	市介護保険課・介護保険担当
14	西木 愛	市職員(保健師)	市介護保険課・地域包括支援担当

【相談役・助言者等】

No.	氏名	職種	所属
1	望月 清賢	市長	山梨市長
2	佐藤 悦子	大学教授	山梨県立大学 地域看護学部
3	吉岡 正和	医師	吉岡医院
4	竹居 由香利	看護師	日下部記念病院 看護部長
5	河西 文子	県職員(保健師)	山梨県健康長寿推進課 指導監
6	小林 由紀子	県職員(保健師)	山梨県健康長寿推進課
7	中込 先子	県職員(事務職)	峡東保健福祉事務所 長寿介護課

【事務局】

No.	氏名	職種	所属
1	古屋 聡	医師	牧丘病院 院長
2	橘田 武	市職員(事務職)	市介護保険課 課長
3	矢崎 貴恵	市職員(保健師)	市介護保険課・地域包括支援担当
4	荻野 誠	市職員(事務職)	市介護保険課・地域包括支援担当

【あしがき】

「山梨市の在宅医療と介護を語る会」のその後の経過について

平成 28 年 9 月 27 日に報告会を実施し、その後、参加者から「まだまだ語り続けたい。」「取り組みを行わなければならない課題がたくさんある。」「今後も集まりたい。」等のご意見をいただき、10 月から月に 1 回、語る会を継続することにしました。

平成 29 年 3 月現在、語る会で出された市の課題をもとに、3 つのグループにわかれて活動中です。

①山梨市の移動支援をなんとかしたいグループ

介護支援専門員、介護施設の管理者や相談員、社会福祉協議会、介護保険課職員に加え、障害福祉関係の施設職員や福祉課の職員も加わり、市の移動支援に関する課題を検討し、市民から意見聴取をしたり、市内にある移動支援に関する情報収集を行いながら、今後の取り組みを話し合っています。

②食とお口の健康を考えるグループ

歯科医師、栄養士、介護支援専門員、訪問介護事業所職員、保健師が集まり、高齢者を中心とした食とお口の健康について話し合いを続けています。5 月には「みんなで作って・安全に食べる 食事の会」を開催し、郷土料理のほうとうを参加者が作り、口腔機能の向上も含めた学習会を実施するとともに、日頃外出の機会が少ない高齢者が出かける機会をつくる予定です。

③ゆるゆると色々学んで考えるグループ

介護支援専門員、理学療法士、作業療法士、看護師、保健師、介護職員が集まり、それぞれが講師となり医療や介護に関する知識を得るとともに、参加している職種の仕事内容を理解する学習会を重ねています。また市民の思いに寄り添う方法について学ぶ中で「聞き書き」という手法を知り、今後有志が「山梨市聞き書き隊（仮称）」の活動に取り組む予定です。

現在活動中のグループ以外に、仲間を集めて新たなグループを作ることや、新たなメンバーが加わることも大歓迎です。

山梨市の地域ケア会議のネットワーク構築、地域課題の発見、地域づくり・資源開発の機能を持つ会議として、平成 29 年度も市民の医療や介護の関係職種が気軽に集まり、話し合い、連携が取れる関係を築く場として、月 1 回の活動を継続していきます。